

やまざき文化

'98-2 *No.17



山崎町文化協会



山崎町の文化活動

山崎町文化協会会長

壺阪

壽

山崎町文化協会には町内で活躍されている二十二もの各分野のグループが参加されています。伝統芸能あり歌人協会あり俳句協会等々実に多分野であります。

1

そしてそれぞれのグループが年間を通じて色々な文化的活動を開かれ、その分野でのレベルの向上に努められていることは、まさに賞賛に値するものであります。

私も春と秋に実施される“山崎芸能祭”を見るのですが、出演される方々の演技の素晴らしいのには大変感心させられます。恐らくあれだけの演技をやられるのには普段随分稽古をされて

人間が本当に心の底から豊かさを感じるのは単に物だけではなく愛情とか、何か素晴らしいものから受ける感動といったも

のだと思います。幸いにして山崎町では文化的に豊かなそして多分野での活動がなされているということは心の豊かさから考えても大変に有難いことであります。

さて、今年も「やまさき文化」が発刊されました。この小冊子ですが内容も豊かであり、また年間を通じて各分野での文化活動も記述されていますのでお読みいただければどんな活動をしているかご理解くださると思います。どうぞこれからも多くの方々がご愛読下さいますことを衷心より念願申し上げます。

◇ 目次 ◇

崎町の文化活動 ンドからの手紙 II	安井 道夫	壺阪
童合唱団二十周年とスクイムの町	杉山 美保子	新間勝代
川道一先生のご逝去を悼む	藤井 慧乘	八瀬 清志
ンブーファイブと私	北川 智恵	山崎 智絵
州太鼓に応援して下さい	千田 淳平	山崎 道壽
十五年の歳月を想いながら	谷口 公恵	安井 道夫
暮礼讃	福岡 久藏	山崎 智絵
跡碑二つを建立	前野 耕二	山崎 道壽
りに魅せられて	根岸 衣笠ヨシ子	山崎 美保子
まりに「まつり」について	福井 志水	新間勝代
察会百回目を迎える	安井 正信	八瀬 清志
和会・四十周年を迎えて	大畠 雅晴	山崎 智絵
唄というものの	野村 章	山崎 道壽
多に残る獅子舞の紹介	田口 實	山崎 美保子
ツキの歴史	大谷 道夫	新間勝代
本武藏は長水城主宇野下総守	鳥越 恵子	八瀬 清志
孫である	伊野 芳一	山崎 智絵
い世界で生きていくこと	後藤 實	山崎 道壽
どもと将棋	小川 登	山崎 美保子
葉を楽しむ	荒木 俊介	新間勝代
務局便り	藤村 真由美	八瀬 清志
集後記	福岡 一孝	山崎 智絵
表紙画／カット	正一 操治	山崎 道壽
表紙題字	尾崎 真由美	山崎 美保子

インドからの手紙Ⅱ

山崎文学会 安井道夫

第一信 八月十五日 バンガロールにて

早いもので、今日はご主人の初盆だったんですね。久しく会わないまま、逃げるようになってしまった申し訳ありません。でも、あなたの側についていたからとて、何の慰めようもなく、反って苦しい思いをしただけかも知れません。

お蔭で、今回は旅に出る前の無理がたたって、惨憺たる状態でした。法務局住民説明会の二時間半のテーブ起こしに夜を徹し、その後は急ぎよ依頼のあった会報掲載の原稿に悩まされるなど、ようやくエア・インディアの座席に落ちつけたのはいいのですが、ムンバイ空港に着く頃には、案の定ひどい乗り物酔いで、以後の行程が無事にこなせるものかどうか早くも不安になってしまった。

混濁した意識のまま空港の外に出ると、インドの都市特有の重い気配がただよい、オートリキシャの運転手や荷物の運び屋に執拗につき纏わなながら、建物の隅っこに走って行つては、吹き溜まりのゴミの上に吐きつづけました。

迎えの車がなかなかやって来ず、深夜ながら薄明のような、生暖かい明るさがあつて、ぼんやり特有のにおいと喧騒の立ちのぼる街路をみつめていると、毛穴のなかまでインドの氣配が侵入してくるようで、ふとご主人の姿が立ち現れても一切恐れもなくお話をできたのではないかと思つたりしました。

でもご安心下さい。もう何とか落ちついています。早朝ムンバイ（ボンベイ）から国内線でバンガロールへ。バンガロール着後直ぐバスに乗換えマイソールへ向かい、昨日はマイソールに一泊して本日再びバンガロールへ引き返してきました。その間、まだ軽い頭痛は残っていますが、ジャイナ教の聖地シラヴァーナ・ベルゴラの六一八段の石段を素足で登り下りするなど、体一杯使うことで息苦しさも去り、もうインドを十分呼吸できる状態に戻つてきました。

同行者は八名です。そのうち名古屋の若い女性Sさんは、やや華奢な体つきで、こ

んな事を言うとあなたは大いに不満でしょうが、ちょっと後ろ姿が似ています、はっつて言います。

一体この若い女性がインドの何に魅入られたのか尋ねると、インドの事は一言も言わず、成田に帰り着いたとき、あまりに整理整頓され、全てが人工的過ぎるのに、大いに危機感を持った。ちょっと怖いほどのショックを受けましたと言うのです。

印度の多様性、なんでも受け入れる懐の深さについては、あなたには中国などとの対比で何回もお話しすることがあります。Sさんの答えは逆転しているようで、よほど印度に嵌り込んだ状態でないと理解出来ない事柄かも知れません。少し横道にそれますが、私がいま日本から、わざわざ引きずってきた思いとも重なりますゆえ、ついでお話してみます。

昨年の十一月三十日大阪で「排除から共生への架け橋」と名付けて、「らい予防法」廃止記念フォーラムがありました。ちょうどご主人が入院中とてお誘いもできず、その後私がハンセン病関係の本集めに熱中している姿を、あなたは奇異な目でご覧になつていたのを、つい先日のことのように思い出します。

ほとんど恐怖のまなざしでしか「らい」を眺めたことがなかった私たちが、人権無視といつてもあまりに酷すぎる実体験を聞かされると、法律の理不尽さに呆れ果て、ほんのちょっとした出来事で国家が凶暴な管理者の相貌をもつてくるのに、言い知れぬ恐怖をもつてしまします。「らい」というレッテルを貼られるだけで、アウシュビツツへ送られるユダヤ人さながら、国家によつて療養所という隔離された施設に強制送され、途端に家族からも社会からも関係を断ち切られて、これは抽象的な表現としては簡単に言える事ですが、代用監獄、断種などのあからさまな人権無視もあって、もう何よりも人格が剥奪されてしまった状態だったのですね。

ご存じの通り、ハンセン病は感染力が弱く、戦後間もなく特効薬プロミンの発見、多剤併用療法の採用などで不治の病でないことが関係者の間の常識になったようです。が、なおその後五〇年あまり「らい予防法」は廃止されることもなく、患者の家族にまで救いようのない悲劇を及ぼし続けてきました。妻子に手紙を出すことも、固く己を律して禁じてきたものを、偶然のことから近所のおばさんに知れ、それがもとで娘は離婚、婚約中の息子は破談、それを苦に病んだ妻は相当のショックで、一ヶ月ほど入院して死んでしまったという報告もありました。

私の「らい」との関わりは、なきに等しいのですが、ご主人がお買いになつた土地が、あのような事件に発展するとはあまりの偶然で、ご主人の遺品の中に「らい」関係書が二、三忍ばせてあつたのもよくよく理解できるような気がいたします。当たりも排水もいい土地、気に入ったから買受けの契約もしたとお聞きしたのは、もう住居建築の設計も着々と進んでいる最中ではなかつたかと思います。この後の事情については、あなたはそれほど詳しくお聞きにはなつていなかつたようですね。

私が登記簿など調査すると、いまだ相続未了の土地で、相手方の祖父の名義のまま。これは大変、まず相続登記からはじめねばならず、困難を予想してその事をお話をしましたが、兄弟も死に絶えて他に相続人もないと聞き、ほつと一安心いたしました。ところが死亡されたはずの弟さんの戸籍では、いまだ存命中で、死亡の記事がない。これはどうしたことかと、売主に聞きに行つたところ、あれほど温和であった売主の態度が、豹変といつてもいいほど急変、顔貌陥しく、もうそんなことしてもらわなくて結構、止めますと、こちらが一喝される始末で、なにが何やら理解できず、私はただ困惑するほなかつたのです。

この文脈でのお話をですから、あなたは大凡その成り行きを直観されたことと思いますが、墓を作りながら、死亡届さえ役場にも持つて行けなかつた事情は、今現在の状況でもそう変わつたとも思われません。戸籍訂正を納得してもらうまでの私たちの努力は並大抵のものでなく、兄弟の恥を背負つて孤独に堪えてきた、この方のこころの扉の強固さが、社会一般の偏見の大きさに対応することは言うまでもありません。

ここでインドの経験をお話ししましよう。もう以前のことと、駅構内の写真は禁止されていますので、ものとしての記録はないのですが、最初に足を踏み込んだ駅として当時アッサムの州都であつたガハティ駅の光景は、今も鮮やかに蘇ってきます。一歩駅構内に足を踏み入れると、あのスペース特有のにおいと溢れるばかりの人いきれ。私たちは、各自の手提げ荷物を持つだけで、二個、三個とスーツケースを頭に載せたポーターの後に遅れまいとついて歩くのが、ところ構わざ横になつて連中のなかをかき分けるように進まねばなりません。

待合室のホールは、蜂の羽音を思わせる雑多な音とひと声の交響で満たされ、私たちの肌にも異様な雰囲気がまつわりついてきます。柱の下には必ず家族連れがひと塊になって眠っています。母親のはだけた胸を枕に、通路に足を投げ出し、仰向けに熟睡している子供たち。側には汚れたパンツ一枚の浅黒い肌の男が死んだように眠つて

いて、胸において瘦せこけた手には、小さなチャパティが命綱のように握り込まれています。

インドの駅は改札口がなく、プラットホームまで自由に通行できるため、ここはホームレスたちの恰好の住処になっています。白い布に包んだ荷物かと思うと、ごそごそ動き出したり、一握りの薪の束を足元に置き、栄養失調の子供の手を握つたまま眠り惚けている男。そのうち雨が降ってきて、鉄柱を通して水滴が落ちはじめると、あちこちで右往左往地を這つて避難する姿が目立ちます。ある少年の片足をみるとなく見ると、鉄棒のよう骨だけしか残っていないのです。そう言えば、このホームに入る時に見た、顔の歪んだ色白の女もまた頬者であったのでしょうか。

いまこのようなお話をるのは、何もインドの貧困や悲惨さをあげつらうためではありません。病気一つとっても、ハンセン病のほか、天然痘、 Dengue熱、コレラ、マラリア、破傷風が猛威を振ることもあり、また社会規制としてのカースト制度が、私たちには理解不能なほどの影響を生活面に与えています。

いま、ここで言いたいのは、あのSさんが見たように、インドを通して日本の何が見えるのか。清潔さにおいて、完全無欠のはずの日本がどんな相貌をもつて立ち現れてくるのか、そのことに興味があるのです。

あなたがトルコ旅行からお帰りになつて、特に同性である女性たちが町を行く姿が何ともだらしなく、とくに少女たちのひ弱さは目にあまると、悲憤慷慨され、しばらく塞ぎの虫が納まらず、私まで往生したことがあつたでしょう。

マスクなどもようやく整理整頓の帰結である「潔癖症」の弊害について取り上げるようになりましたが、明治以後西洋追従の近代化のなれの果てが、この様です。確かに雑菌は、生物学的なものも、社会学的なものもきれいさっぱり排除されて、せいぜいするほどの都市型社会が出現したわけですが、マイナスの部分との共生を忘れた、奇妙な社会を建設する仕儀になつてしまつたようです。

○一五七による集団食中毒なども、共生の思想を忘れて、ただ無菌・無臭を追い求めた、強迫的「潔癖症」の結果であることは否定の仕様がありません。花粉症や喘息などのアレルギー症状が大気汚染などに原因があるとの説には、あなたは以前から異論を唱えておられましたが、私も今回の問題で無理やり行政と関わりをもつてみると、日本のシステム全般が実におかしな意識に毒されているのに今更ながら大きな危惧をもつてしまします。

勿論四日市喘息、水俣病など、経済一辺倒による公害問題が悲惨な身体障害をもたらしたことは否定しようのない事実ですが、あなたが言っているのはそれ以前の問題で、近代化の追従者たる日本が、追従者特有の性質から、本家を凌いでまでも国家ぐるみで極端な優生思想に走ったことへの非難だと思います。

現実は、殺菌剤や抗生物質の乱用で、微生物との好ましい共生関係を自ら断ち切り、抗体もなく、免疫力はおちる一方。あれは、確かあなたがバリ島へ行かれた時の話でしたね。さまざまな国からの人たちが集まる観光地で、同じ食事をしながら日本人だけがコレラに罹って大騒ぎしたようで、今では世界各地を回る日本の若者が子供の病気と思われてきたハシカや水疱瘡に感染して、時には死に至ることも珍しくないという恥ずかしい限りの話でした。

なぜ、日本人だけがこのようひ弱で、生命力の薄い、もやしのような生を、しかも気遣い気遣い送るようになってしまったのか、とくに第三世界といわれる国々に身を置いて日本を眺めると、あなたの同様はがゆくて仕方がありません。

こんな話もありました。ルワンダなど大虐殺の断末魔をくぐり抜けて生き延びてきた子供たちがいます。子供が見ている前で、両親や兄弟たちが次々殺されていき、自分も手足を失うほどの大怪我をしても、日本の子供のように自殺するような子供は一人もいないということです。親たちの殺された責任全部を自分に引き寄せ、一層重い生を引きずっていくことになるにしろ、決して自らの生を放棄するなど考え及ばないことがあります。

私は乗り物酔いの微熱の中で、インド人の旺盛な活力に当たられながら、硬直しきった日本の行政システムのさまざまな面を想起していました。「らい予防法」は国際的人権規約からも激しい批判を受けていたようですが、なお長年生き延びた経緯には、体のよい大義名分「公共の福祉」の文言が第一条に記載されていた事実があります。残念ながら快適な大多数の市民生活を保護するためには、「負の文化」は、如何なる手段を取るにしても排除しなければならず、「らい患者」の強制収容や終身隔離などは国家目的のほんの一つの現れにしか過ぎなかったのでしょうか。

物質文化の属性といつてもいいのですが、いま流行りの行政の効率化とか、集中化とか、またネットワーク性などいう日の当たる施策のかけで、「負の文化」と位置づけられた周辺の事象は、国家権力によって何とも無惨に切り捨てられてきており、それを近代化の代償などといって黙認するわけにはまいりません。



ヒンドゥーイズムの魅力を語るとき、必ずインド社会の多様性が上げられます。そこでは殊更「負の文化」が話題になつて、時代ごとに極端なまでに正反対の概念も動員されるということで、たとえば男神に対するに女神、生に対するに死が、違和感があるどころか、それらの合一によつて、よりスケールの大きな宇宙的なものに成長して行く根拠にもなつてゐるのです。

これらの問題こそが、もっともあなたを刺激し、今後の議論のもとになる話題だと思つていますので、おいおいそういう事についてもお便りを差し上げます。今回は日本から引きずつて来たものに躊躇、その上乗り物酔いの不機嫌さまで加わって、本当に陰気な話題になつてしまつて申し訳ありません。ただ、Sさんの話が少々理解できると思ったので、こんな事まで書いてしまいました。

今年の日本は殊の外厳しい暑さで、お盆を過ぎたからとて、そう急激に涼しくなるとも思われません。あなたは今年は厄年で、余りにも多くの心労が重なつたのですから、インドの牛になつたようなつもりで、ときには悠々自適の気分を味わつて下さい。明日は、世界三大美港の一つといわれるコーサンへ発ちます。

第二信 八月二十日 マドゥライにて

標高一、〇〇〇メートル近いバンガロールから、雨期の真っ只中のコーチンなどアラビア海よりの西海岸では、予想とは違ひ日本の暑さからみれば随分過ごしやすい気候でした。ところが、カニヤークマリの突端をまわり、東ガーツ山脈の麓に出ますと、もう雨の気配どころでなく、土地はからからに乾燥し、植生もラジャスタンの半乾燥地帯を彷彿させる矮性の茨類が点々と見える程度で、耕作には極端に不適な土地と思われます。ここではバスの中にも、がんがんインドの熱気が進入してきました。

第一信で美しい港に向かうなど言いながら、最初に痩せた土地の話ではちょっとひどいとご不満のことは重々承知でも、ほんの一日前の行程の距離のうちで、これほどの風土の違いを味わった驚きを、一刻も早くあなたにお伝えしたかったまでです。では、コーチンの話に戻ります。

以前N.H.K.テレビ「海のシルクロード」で放映されるなどして、胡椒積出し港として有名なコーチンの知識は、すでにひと通りはお持ちのことと思います。

床一面に中国製染付け陶板を敷きつめたシナゴーグ（ユダヤ教会）や、ヴァスコ・ダ・ガマの墓石が埋め込まれた聖フランス教会など国際貿易港としての顔、またカタカリ舞踊や、チャイニーズ・フィッシング・ネットなど他の地方には見られない特殊な文化もあって、いつの日かあなたの禁忌が解けてインド旅行に出立されることがあるのなら、インドの一般的イメージとは一風変わった軽やかで、エキゾチックな情緒が味わえるのではないかと、一応お勧めいたします。

以前インドの樹木についてお便りしたことがあります、ここは湿気が多いだけに、特別植物の生命力の旺盛な土地柄です。シヴァ神の容赦のない破壊力を思われる強力な植物の悪意さえ見えるようで、樹木に閉まれた洋風建物はどれも湿気に当たるが、黒ずんできたなく汚れ切っているのです。

自然の破壊力のまえに、人工物は疲弊しきって青息吐息といった状態です。熱帯雨林の経験のあるあなたなら、もう少しこの風土と共存できる建物をご存じでしょうが、ここでは図らずも近代建築の限界を見てしまふた気分でした。

コーチンから南に下ってケララ州都のトリヴィアンドラムまでの海岸線は、コーチン以上に湿润な土地で、道路と海岸の間に潟湖（ラグーン）や後背湿地を抱え、河畔ではマンゴーブとココヤシの密林が熱帯雨林さらがらの光景を見せています。それが

東側に回った瞬間、あの正反対の乾燥しきった風土に出会うのですから、私の驚きもご理解して頂けるでしょう。

ここでケララ州の特殊性についてお詰しておきます。就学率はインド随一で、ガードの言うように識字率一〇〇%というのは、にわかに信じがたいことです。が、キリスト教徒の割合が極端に多いこと。また、合法的な選挙によって共産政権がインドではじめて誕生した等、さまざまな歴史的な軋轢のなかで、住民は無理やりにも進取の気性を身につけるを得なかったのではないかと思っています。あなたのご主人なら、共産党と聞くだけで、職業柄根からの拒否反応を起こされ、細かな事情は聞いて頂けなかったことだと思います。でも、この共産党は西欧とは逆で非暴力のガンジー主義を奉じ、反ってキリスト教会こそ暴力的で、中央政府の介入さえなかつたら、共産党による新しい政治状況が生み出だされたはずと言われています。ここにインドの抱える現在の社会状況が凝縮されていますので、簡単にでもお詰しておきたいのです。インドの地図をご覧になれば、ケララは西ガーツ山脈とアラビア海に挟まれた誠に狭小な州だということがお分かりになるでしょう。ドラヴィダ系のマラヤーラム語を話す人たちの土地で、自然の恵みのため流入者が多く、それが原因して平均年収も他州に較べて極端に少ないというパラドキシカルな状況のようです。

確かに外見上は豊かさに満ち溢れ、インドのゴム生産の九三%を担い、茶、ビンロウじゅ、黒胡椒などの大部分を生産しながら、食料については五〇%の自給率しかないのです。鉱物、木材にも恵まれ、水量も豊かであるからこそ、反って西欧植民者の目の付けどころとなり、プランテーション農業では住民はお決まりの収奪の餉食となつたようで、独立後は独立後でそれを引き継いだインドの資本家・地主が恣意的に同じ形態を維持してきたというのです。

言い忘れましたが、八月十五日はインド独立記念日で、（これは日本の敗戦記念日を採用したとの話ですが）公共の施設やホテルはすべて（豆電球のイルミネーションで飾りつけ、小学生たちの旗行列などもあり、どんな田舎までも華やかに浮き立つ）ました。それでもイギリスの植民地政策が今に至るも大きな傷跡をインド社会に残したのは、否定の仕様がなく、カースト制度のあり方や宗教間対立を見るだけで十分お分かりのことだと思います。パキスタンと接するカシミールでは、またしてもヒンドウー教徒、ムスリム間の紛争が激化しているようで、ハウスボートで有名な観光地スリナガールなども旅行者の立ち入り禁止になっています。ここマドゥライの街にも難を逃

れたカシミール人があちこちに物産店を開いてあこぎな商売をやっていますが、カシミヤのショールや絨毯などでは、南インドの旅行者にとってちょっと異質なものと思われても仕方ありません。

今回のガイドよりイギリス植民政策で、歴史的にも農民の人口が急激に増えて行つたと聞いたとき、ここでもキリスト教布教と不即不離な植民地通商交易というものの、なんとも大げさな利益収奪に思いを致さないわけにはゆきません。植民者は、古代から「印僕」といわれて世界へ散ったほど、進取の気象に富むインド商人たちの職域を次々奪つていったのです。中にはいち早くイギリス側について、世界一の金持ちになつた藩王もあったということです。

さて、インドをヨーロッパ人と語族を一つにするアーリア民族の国とするアーリア人学説というものがありますが、これにもいろいろ問題があつて、結果的には植民者の優越を合理化するには都合のよいものだったかも知れません。

これと関連して思い出すのは、最初のインド旅行から帰った直後、私がモヘンジョ・ダーロやハラッパーの、高度なインダス文明の担い手が、ヒンディー語やベンガリーラ語を話す中央のインド人とは違つてドラヴィダ人であったと、知つたかぶりで主張して、あなたのご主人と激論になつたことです。相当ひどいものでしたが、お蔭でご主人共々あなたとお知り合いになれた記念すべき事件で、いまは何より感謝しています。そういう意味で、ドラヴィダ世界のただ中にいて、なんだか懐かしい土地にいるような気分を味わっています。

ヒンドゥー教発展の中で、ドラヴィダ人の貢献とされる一つに、バクティ信仰があります。最高神への帰依信仰をさす言葉で、「信愛」とか「誠心」とか訳されているようですが、神との強い交歎を求める強烈な宗教感情で、情緒や感覚を総動員して、あたかも恋人に対するように神を念じれば、必ず神の恩寵が得られるとする考え方です。見方によつては密教的で少々エロチックなところもあり、私はすぐにも夢を生きた明惠上人が、仏眼仏母へ抱いた思いを想起してしまいます。聖典に通曉し、知覚や感覚をできるだけ遠ざけて、ただ己の中に没入して絶対者を想念するという、これまでのバラモン祭祀階級特有の信仰とは異なり、バクティは民衆側に立つた革新的な精神運動だつたのです。

また、ヒンドゥー教の宗教儀礼の中で、めだつて重要なのは花をささげて神を祭ることで、これも南インドの発祥だということです。花は寺院の門前にあるマラカール

(花飾職)の店先に並べられているだけでなく、道端でも、バザール内でも、座り込んだ女性が花冠ばかりをつけさせてレイ状の花輪をつくっている光景は、インド中どこでもお目にかかります。道路に張り出した屋台では、屋根からいく筋ものレイを垂らして売つていて、その色さまざまな取り合せが、インドの原風景として何よりも先に私の目に刻印されたものでした。

大きなものはもぎ取つた花冠、白蓮は花弁をとつて針金で再構成したものなど、神はそれぞれ特定の種類の花を好むようで、アコンドはシヴァ女神、チャンパやジャスマンはヴィシヌ神、そして真っ赤なハイビスカスは恐ろしい女神カーリーにという風に対応が決まつてゐるので、大規模な祭となれば専門家マラカールの手を煩わすことになるようです。

このような神への直接の供物礼拝をブージャーといいますが、ドラヴィダ語で花を意味するブーに由来するそうで、これこそが民衆の日常にしみ込んだヒンドゥー教儀礼の中核を形成しているのです。

ここで話がとんでしまいますが、このマドゥライ(タミル・ナードゥ州第一の都市)の中心には広大なミーナークシー寺院があつて、とくに寺院周辺は門前町特有の雜踏で沸き返つています。詳細は後回しにしますが、ブージャーのお話をしましたので、花についてもう一言報告しておきます。寺院内を回つているとき、多くの人だかりがあつて中を覗きますと、花婿、花嫁が文字通り服装が隠れてしまうほど花に飾られ、立つたまま参詣者の祝福を受けていました。レイ状の花輪は腰に達する程長いのを立たせたまま幾重にも首にかけ、両肩には精緻に細工された円形の花輪をおき、帽子にも色彩溢れる花飾りをつけていました。

また匂いのよいキンコウボク、ジンジャー、クチナシなどは家庭でも好んで栽培されているようで、その花は女たちの豪華な髪飾りに使用されます。

私たちはマドゥライに着くなりオート・リキシャを雇い街へ繰り出して行つたのですが、その道すがらの経験をお話しておきます。まず、広告の看板、ポスターの強烈さに度肝を抜かれます。ポスターは岡柄がはげ落ちる前に、次々貼り重ねられ、建物の新旧には関係なく、壁には特有の丸みを帯びたタミル文字が色彩豊かに踊つています。路上は大変な喧騒でトラック、バスなど大型自動車の間を縫つて、リキシャから牛車、人の引く荷車まで道路いっぱいに溢れ、その間を場所にはお構いなく歩行者や

牛が横切つています。リキシャは人力車で、日本語がインドに取り入れられた希有な例で、流石にインドでも少くなりましたが、大きな街では必ず目にできます。それに自転車で引くサイクル・リキシャ、三輪車のタクシーはオート・リキシャ。これが庶民の足には最適で、正真正銘のタクシーとしては国産車のアンバサダーがありますが、ちょっと高級な感じもします。

さて、事件というのはオートリキシャの運転手が、仕事にありついて機嫌上々調子に乗り過ぎたのか、大型車の間に割り込んで、あわや衝突。もはやこれまでと観念するしか無かったのですが、それが急ブレーキを掛けるでもなく、よくもそんな隙間をすり抜けられたと思うもなく、私たちの恐怖の叫びに運転手は後ろ向きになつてニヤリと微笑むのです。このハンドル捌きは抜群で、何故あの状況から抜け出せたものか、理解も納得できません。日本でなら当然お陀仏というところですが、所変われば品変わる運転技術も国によってこれほど違うのかと感心するばかりでした。車のホーンも無制限で、そんな喧騒のロータリーの蔭で牛たちは自然と横になっています。これほどの雑踏の中で牛や犬たちは悠然と怠惰なほどの生を貪っているようで、それを見習うかのように男たちがあちこちに集まって、何しゃべるでもなくチャイなど飲んで本当にゆっくりと寛いでいるのです。

また、女たちが草席で玄関口を掃き清め、つくばって玄関のたたきに白い線でコートラム（吉祥文様）を描いていたり、喧騒の中で、時にいいんとするほど静寂な光景に出てくることがあります。

これらの静寂と喧騒、停滞と高揚、貧と富など社会的なものから激しい寒暖の差まで、すべてに亘つて両極端が違和感もなく併存しているのがインドの特徴で、いま日本で関わっている行政機関の見せかけの誠実さの、あの何とも理解不能な感触に較べればよほど私の性に合っているようです。

突然ですが、あなたが私淑されているロラン・バルトの口真似をして、「インドは私のテキスト」と言つてもいいでしようか。バルトが西洋文明体系をゆさぶり、そこに亀裂をつくるために日本をテキストにしたように、私はインド体験でもって日本を鋭く逆照射することが出来る気がしてきました。

日本語が理解できないバルトが、日本を一種の本、テキストとして読んだように、私は日本にいるときよりもよほど強い感性でインドを呼吸し、日本のシステムを見直す手段を見つけたいと思っているのです。

南インドでは、いたるところに巨大なシヴァ派の寺院がありますので、今日はシヴァ神についてお話ししますが、もうあなたは日本との極端な異質さにも驚かることはなででしょう。シヴァは、まず女性のシンボル、ヨーニから立ち上がるリング（男根）で表現されます。

シヴァ神は世界的主要神の中でも、もつとも分かりにくい性質をもつと言われ、その多義性ゆえに、シヴァ神を取り巻く世界は、インドの大地だけではなく存在の全体を表象するほどのスケールをもつてゐるのです。

まず、ミーナークシー・スンダレーシュワラ寺院にご案内します。現在の姿は十四世紀から十七世紀までに完成したもので、寺域は二三〇坪×二六〇坪の長方形の壁に囲まれ、マドゥライ市街を睥睨するかのように、その四方東西南北に巨大なゴープラム（塔門）が立っています。ゴープラムは最大のもので高さ四八尺といいますが、上半分まりのどの壁面にも目まいするほどおびただしい神像や乗物が取り付けられ、塔全体が極彩色に輝いています。

東門が通常の出入口になつていて、中に入ると神具や供物の花など売っている売店があります。そうして目の前にシヴァ神の乗物ナンディン（雄牛）を祀る堂、その右側に今は寺院の博物館になっている千柱堂があり、柱の一本一本に後足で立つライオンが彫り出され、柱頭には獸面の持ち送りがあって、それらが薄明の堂内で向き合つて並列しているさまは何とも異様な光景でした。

奥の祠堂へ行くまでの二重の回廊でも、柱といわず壁といはず、天井に至るまで一面彫刻や壁画で飾られていますが、数多くのマンダパ（堂）はわずかな明かりしかなく、ギイ（バター油）と聖水が床にまで溢れ、湿潤な感触が足裏に伝わってきます。堂内いたるところに捧げられた聖なる粉の色彩とギイの灯明からの強烈なにおいが、ヒンドゥー寺院の特徴なのですが、その中を敬虔な参詣者がブージャーの花などを捧げて行きます。この寺では一日一万人の賑わいがあるといい、その引きも切らぬ喧騒がいつそ宗教色を盛り上げてゐるようです。

さて回廊に囲まれた奥の祠堂が二つ並んでいて、左にミーナークシー女神、右側にスンダレーシュワラ神が祀られています。スンダレーシュワラ神はシヴァ神で、神体はシヴァ派の寺院の例にもれず頭の丸い円筒形をしたリングですが、赤い色粉をかけ、花を捧げ、跪いて熱心に祈祷する妙齢の女たちの姿があります。その美しいサリーとリングの対照が、私にはインドをいやが上にも実感させてくれるのであります。

さてミーナークシー女神ですが、軍神ムルガン同様ヒンドゥー教以前からドラヴィダ人たちは信仰されていた土着の神で、もともと強力な地母神であったようです。それがシヴァ信仰の南への進出にともなって、いつしかシヴァ神の配偶神パールヴァティーと同一視されるようになり、このような女性神の取り込みが化身の思想に支えられたヴィシヌ信仰とは違ったシヴァ神の特徴となっています。

そういう古い記憶を消し去ることができないのか、毎年四、五月にはスンダーレーシュワラとミーナークシーの結婚を祝う祭が盛大に行われていて、インド亜大陸最南端のコモリン岬の砂丘にも、その結婚式でまかれた七種の米が変じて七色の砂になったという伝説もあります。

ここでコモリン岬の話題が出たついで、いまはカニヤークマリと言われる海の聖地についてちょっと触れておきます。ベンガル湾、インド洋そしてアラビア海と三つの海が合する場所で、太陽が海から昇り海に没するのを眺めることの出来る土地は、インド広しと言えどもここにしかなく、ヒンドゥー教徒にとって最も重要な巡礼地になっています。私たちも夕日、朝日とも拝みに行きました。早朝、日の出を待つカニヤークマリー寺院の境内は、人々が立雖の余地のないほど押し合いへしい海に向かって立っていますが、異常なほど静かな姿がとくに印象に残っています。

寺の南の海にはガートが設けられていて、日の出を拝した多くの男女が沐浴していましたが、女たちは濡れたサリーを乾かすために二人一組でサリーの両端をもって広げます。そうするとサリーは強い潮風を含んで、はたはた旗めいて、なんなく乾燥するようで、その色さまざまなサリーが、朝日の逆光に透け、艶めかしく輝いていました。

そう言えば、あなたに約束したサリーのことが気になっています。次に行くカンチ・プラムはカンチ・サリーといわれるほど絹のサリーが有名な場所で、あの災いから身を守るという赤い縁飾りのついたのが、きっと手に入るはずですから、待っていてください。

一方、「クマリ」については、ネパールの少女「生き神」が有名で、写真などご覧になつたはずですが、カニヤークマリも同様の処女神で、パラシャクティとしてシヴァ神に対抗するほどの力をもつてているのです。

ヴァーラーナシー（ベナレス）のヴィシワナート寺にお詣りをして後、ここカニヤー

クマリー寺に参って、はじめて救いの巡礼は完成するといわれるのは、バラシャクティ・シヴァの合体がなければすべての表現も実在がないとの考えがあつたわけで、後期になれば現世で作用するシヴァのエネルギーは、シャクティ（女神）の形相をとつて発揮されるようになります。

大分飛躍してしまったので、もう一度シヴァ神に戻ってその性格を見てみたいと思います。まずリンガの起源ですが、簡単に要約してみます。

混沌として、ただ水と星のない夜だけの、神話特有のお馴染みの原初の中で、一切の可能性も無差別の眠りの中に包まれておりました。ヴィシヌは光輝く実体の上に横たわり、自らの祝福を放射しながら自給自足を貢っていたようです。そのとき別の光が太陽の輝きをもって近づいてくるのに気づきます。それは四面をもつたブラhmaで、ヴィシヌに対してお前は誰か？　お前はどうして生じてきたか？　と問いか、その上、われこそが生類一切の始祖であるとまで断言するのです。ヴィシヌも黙っておれず、いやわれこそが宇宙の創造者であり破壊者であり、現に繰り返し繰り返し宇宙の創造と破壊を行ってきたではないかと、抗弁します。

この時間のない場所での、口論中の両者の間に、炎を冠した巨大なリンガが割つて入ってきて、それはみるみる宇宙の果てまで伸びて行きました。ふたりの神は驚きあわて、それぞれが両端を見極めようとして、ブラhmaは鴨になり天へ、ヴィシヌは野猪となって海底へと探索のため疾走しましたが、どちらも限界に達するどころか、リンガは探索者たちの速度よりもなお一層のスピードで伸びて行きます。ついにリンガの側面が裂けて、シヴァが立ち現れ、自らが両者の起源であると宣言し、ここに創造者ブラhma、維持者ヴィシヌ、破壊者シヴァの三神を一体に包含して、至高神シヴァが誕生したという話です。

ヒンドゥー教は、樹木や精霊でも崇拜する典型的な多神教とする考え方がありますが、一方この神話でイメージされるように、南インドではシヴァ神との一体化により救済をもとめる一神教的な思想があるのです。

しかし、今はそういう理屈をくだくだ並べたてるのが目的でなく、至高神シヴァが異質なものを次々と取り入れ、非常に不透明な存在でありながら、いまだにあれ程の熱氣で強い信仰を集めていることが不思議で、それを不細工なかたちでも、是非あなたに報告したかったのです。日本では、そこまであらわに発揮できない性力から、禁欲の極致というべき乞食遊行のサードゥーまで、また怠惰から聖仙（リシ）まで、イ

ンドでは振幅の大きさが少しも不似合いでないということなのです。

もう少し、シヴァ神についてお話しておきます。さきに私がカイラス山巡礼のあと写真で説明しましたように、カイラス山は神秘の衣を纏った巨大なリンクで、ヒンドゥー教徒だけでなく、仏教徒、ポン教徒、ジャイナ教徒の聖地にもなっています。インドではシヴァ神が瞑想する山としてあまりにも有名です。

エローラ第一六窟のカイラーサナータ寺院は、玄武岩の山を上から幅四五尺、奥行き八五尺にもわたって彫りだして作った高さ三三尺の岩石寺院で、建築遺産のなかでも豪壯でもっとも傑出したものです、頭頂のシカラはカイラス山をかたどった巨大なリンクになっています。

その他、今回の旅行中見たように、各シヴァ派寺院の外壁には、「象の魔神を退治するシヴァ」、「ガングー河を受けとめるシヴァ」、「乞食のシヴァ」、「踊るシヴァ」など神話による優れた彫像が保存されておりますが、ここではタントラに向かって相反する二元性がどのように一つのものとして表現されてきたか、女神との関係で見てみたいと思います。

たとえば一〇世紀制作のシヴァ・シャクティがあります。シヴァは大きく、小さく表現された妃パールヴァティーは右手をシヴァの肩にまわして、シヴァの左腿の上に座っています。シヴァは左手で妃の腰を抱き、じっと見つめ合っています。この彫像から醸しだされる絶頂感は、根本的に一つであることの秘密をそっと教えてくれているようです。神話は、根本的に一つであるべきものが、宇宙とその生命のために、見せかけの展開をしてしまって、そこから一切の対極性、敵対性などの区別が生じたとしています。

抽象的な表現になりましたが、あなたには別に、この彫像の興味深い読みについて詳しく述べるつもりです。本当に、美しさを超えていります。

チベットのマンダラ同様、男女神間の性格の分担については、ちょっと常識から逆の感じがしないでもありませんが、男神は永遠で受動的な側面を担っていて、女神こそが活動のエネルギーの化身として時間のダイナミズムを所有しているとされているのです。そうして、シャクティは配偶神のウマ、ドゥルガー、パールヴァティー、カーリー、ガウリーなど女神の姿をとって、この世に顕現してきます。

マドゥライでは、真っ黒といつてもいいほどの肌の女性に出合うことがあります。血を好むという恐ろしい女神カーリーも黒い肌をしています。

カーリーとは、もともと黒色の女を意味しているようで、その形相は牙を剥き出し、その間から赤く長い舌をだし、腕は四本でそれぞれにパーシャ（捕縄）、カトバーンガ（頭蓋骨のついた杖、剣、生首をもっています。衣装はもつと凄まじく、ベルトは切り取られたばかりの人間の生首で作られ、スカートは同じく刈り取った手を重ねて）いるといった案配で、なぜこのようなおぞましい神が出現したのか不思議に思われるでしょうが、カルカッタのカーリーガート寺院はマザー・テレサの活動の本拠からほんの近くにあって大変な賑わいをみせています。火葬場を住居として血や骨を好むということは、不淨に特別敏感なバラモンを中心とした宗教ではまったく考えられないことで、後にカーリーがシヴァの妃になるのはタントリズムの無限のエネルギー解放と関係する事ではないかと思っています。

もっとも人気があるカーリー女神の図は、ほとんど死んだように横たわるシヴァ神を踏みつけ、その上で舌をだして刀を振り上げる姿のもので、これこそが男性、女性の両原理合一の極限の視覚化であるのかも知れません。

いずれにしろ、ここ南インドは何につけ女性原理のかつた土地柄のようです。

何だか、この手紙の意図からどんどん外れては、これでは慰めどころかあなたをいらいらさせ通しだしたことだと思います。シヴァについてなら、美しく踊るナタラー・ジャの紹介の方がどれほどあなたに相応しかったか、今更残念がつても無駄なことです。

そんなことより、面と向かっては話しにくいことも手紙ならと、高をくぐっていて、本当に無理を承知で出てきた意図もそこら辺にあったのですが、あなたの面影が浮かぶだけで結局こんな様になってしましました。

生半可ながら宗教のことを書いたのは、ご主人のためです。

ただ、インドにおけるエネルギー噴出の起源とも言うべきシヴァの混沌に、わずかながら触れ得たことは、この旅の成果と思っています。

短歌

ふるさと遡行

(揖保川周辺)

山崎歌人協会 山 崎 智 絵

しゆわしゆわと馬が尾を張る馬として
在る寂しさを耐ふるごとくに

杜沢光一郎

この歌に出会った時、すぐに思い浮か
ぶふるさとの一つの光景があった。

石垣の下の大きな無花果の陰に、荷車
に荷を積む間しばらくを憩う馬の姿であ
る。俯きがちな頭を時々上げ、睫毛の長
い聰明そうな目をしばたたく。直く長い
尾を思い出したように静かに振るのは、
虻や蠅を追うためであろう。「しゆわし
ゆわ」のこのしめやかな擬音語によって
私の中に埋もれていたものが、俄に立ち
上がりて来るのを覚えるのである。

兵庫と鳥取の県境、戸倉峠を源として
南下する揖保川が、山川の様相から平野
部の穏やかな流れとなる山崎町と、川を
挟んで東側に河東村が在った。この村は、
揖保川に添う八糠の細長い地形に九つの
集落が北から南につらなる農村であった。
その南端の須賀沢に至って、間もなく
川は行く手を川戸山に遮られ、大きく右

に曲り龍野を経て網干港に入る。村の真
中を走る県道もまた、左折して安志峠を
越え姫路に向うのである。この道の曲り

角に、私を養育してくれた伯父の家があ
り、五歳から十八歳までを揖保川の瀬音
をききながら私は朝夕を送った。家の前
には川に下りる急な坂道があり、五十米
ほどは狭い石塊道になっていた。

夏の昼下がり、砂を入れた頑丈な木箱
を荷車に積み、馬方の掛け声とともに勢い
よくこの坂を駆け登つて来た馬が力尽き
て動けなくなるのをよく見かけた。馬方
の荒々しい叱咤の声と鞭が鳴り、手綱は
より強くひきしほられる。立ち直ろうと
足搔く馬の細い脚は今にも折れそうに見
え、馬の喘ぎや悲しげな嘶きが今も思
出される。あの馬たちも戦争が始まつて
間もなく、姿を見せなくなつた。

坂を下りると、古い無花果の木の辺り
から右ばかりの河原になり、細い道が川
端まで続く。その中ほどの道の傍に、合
掌造りの屋根だけを置いたような藁葺き

の小屋がある。村人は舟小屋とよび、舟
頭の文やんが毎日どこからか通つて来て
渡し守りをしていた。

対岸は切岸で竹藪が続き、舟着場に下
りる坂の辺りに庵寺の屋根が見え、その
下流には共同墓地が広がっている。この
期には米麦等を運んだ。また山越えで來
る旅人には一人につき一錢の舟賃をとり、
これは文やんの唯一の現金収入であった。
村人は二度の収穫期が終ると、幾許かの
米麦をお礼として贈っていた。

舟小屋の一畳ほどある板の間に腰を掛け、
大きな石を三つ四つ並べただけの囲
炉裏で焚火をしながら文やんは客を待つ
ていた。対岸から「おーい」と呼ばれる
と「おーい」と応え、ゆっくりと太股に
歩いて舟着場へ降りてゆく。文やんが大
人と話すのを見たことはなかつたが、私
達子供が川で洗い物をしてあくべつんだ
手をしていると、「温って行けや」と声
を掛けてくれる。焚火に吊るした大きな
黒い茶瓶が湯気をたて、小屋の中は見る

から温かそうであった。

梅雨の大雨や台風が年に二度、三度、
いっせいに灯るころ、気が付くと藪陰に
ボーッと月見草の花が見える。私達は、
「幽霊花が咲いた！」と叫びながら駆け
て帰るのだった。

この川原を濁流と化す。大水の去つた後
にはあの舟小屋も砂穴も消え失せ、均され
て新しくなつた河原に、生木のような
流木が置き去られる。村人は舟小屋を
造り始め、子供らは水泳解禁の日を待ち
わびるのだった。

その頃、私は小学三年生で、日中戦争
は一年後に迫つていた。

今はこの河原から姿を消した。
地域の雪解けまで、川幅を縮めてゆく。
河原の石はすべてまるやかで白く乾いて
いた。私たちは好きな石を見つけると、
端切れや手拭いを着せてデコさんごとを
して遊んだ。今で言う着せ替え人形ごっこ
である。デコは木偶の意であろう。

各地短歌祭入賞入選作品

(平成九年度)

◇第九回神戸短歌祭

(四月二十九日・神戸市立婦人会館)

・入選

震災に逝きたる甥の三回忌の案内は質

状にまじりて届く

馬鹿でいることにも慣れしと思う日の

路傍に低く冬のタンボボ

菅谷美津子

横野 弘子

佳作

震災に逝きたる甥の三回忌の案内は質

状にまじりて届く

馬鹿でいることにも慣れしと思う日の

路傍に低く冬のタンボボ

菅谷美津子

・兵庫県議会議長賞

ホスピスに入院の君の書きおきし乱れ
ぬ文字の焼香順序 森谷 康弘

・山崎町長賞

泣き面に駆けてゆく児のランドセルつ
けたる鈴の小刻みに鳴る

・山崎町長賞

早湾のひび割れ進む 伊東まさ子

・山崎町教育委員会賞

ムツゴロウのおどけし顔が歪みゆき諫
早湾のひび割れ進む 伊東まさ子

・山崎町文化協会賞

菅谷美津子

・宍粟郡歌人連盟賞

菅谷美津子

◇西播磨短歌祭

(十一月十三日・西播磨文化会館)

・兵庫県知事賞

ありつけの鎌を並べて研ぎくれる夫
は昨日定年となる 成定千寿子

・兵庫県文化協会賞

草刈機のエンジン喰る向ひ田の夫へ手
真似に昼餉を伝ふ 中田 博子

・佳作

若きらをわがやりすごすたまゆらに何
か見えざるもの譲りたり

・佳作

森本萬千子

・佳作

妹をブラジルに送り亡き母の墓辺に來
れば去りがてぬかも

・佳作

妹をブラジルに送り亡き母の墓辺に來
れば去りがてぬかも

・佳作

杉山義昭・歌集『青い山脈』より

。きりさめのなみだにうるむ裏山やひと
りの親を死なしめにけり

。耳しひをあになげかめや吾子と来て仰

ぐ大和の塔の水煙

。耳しひをあになげかめや吾子と来て仰

ぐ大和の塔の水煙

。耳しひをあになげかめや吾子と来て仰

ぐ大和の塔の水煙

。耳しひをあになげかめや吾子と来て仰

ぐ大和の塔の水煙

。耳しひをあになげかめや吾子と来て仰

ぐ大和の塔の水煙

。耳しひをあになげかめや吾子と来て仰

ぐ大和の塔の水煙

大井秀子遺歌集『花は終りぬ』より

。笛の葉の白く枯るるは忌のきさしひよ
つと私が死ぬかも知れぬ

。時来れば盛りの花も散りゆくと心しづ
かに終の日を持つ

。泣き面に駆けてゆく児のランドセルつ
けたる鈴の小刻みに鳴る

。泣き面に駆けてゆく児のランドセルつ
けたる鈴の小刻みに鳴る

。幼くて地獄の怖さを祖母に聞けり老い
て思ふにみなまことなり

。敵弾のややゆるみたる明け方を露寒き
壕に眠らむとする

。敵弾のややゆるみたる明け方を露寒き
壕に眠らむとする

。笛の葉の白く枯るるは忌のきさしひよ
つと私が死ぬかも知れぬ

。時来れば盛りの花も散りゆくと心しづ
かに終の日を持つ

激動の昭和を 歌い続けられた

郷土の先人たち その遺詠

遺歌集『安井俊二歌集』より

。平和のために再軍備する年とこそうべ
なはされて年改まる

。この次に何売るべきやつばらかに思ひ
めぐりて年暮れむとす

。子もそれに灼かれつ

。妻とゆく晦日の夜のもらひ風呂雪の降
れば傘さしかけて

。松本富治・『昭和萬葉集』より

。この彈にあたりて死なば樂ならむと思
ふときふと妻の顔顕つ

。幼くて地獄の怖さを祖母に聞けり老い
て思ふにみなまことなり

◇第十六回宍粟郡民短歌祭

(八月三十一日・サンホール山崎)

俳

句

さわらび句会詠草

青嶺句会詠草

限りなく風になびくや花芒

山崎俳句協会

杉山美保子

耐ゆること生きることなり散ざくら

惜し氣なく剪る幸せやコスモス田

川崎栄子

砂漠の旅終へて雛にくつろぎぬ

山中正子

御祓を受けし新車や若葉映ゆ

芦田八重

友禪の花が流れて水温む

秋久光子

くだり來し山見上ぐるや時雨虹

庄昌子

石野光栄

上氣して点前する娘や月茶会

井口泰子

乱れ咲くものみな親し秋の庭

下村君子

他所行きの言葉となりぬ初電話

故高野南嶺

母と子のブランコ揺れて秋桜

田中良子

寒明けの歩く大地のやはらかく

高野薰風

波うちて植田の苗のそよぎをり

鳥羽チエノ

宿浴衣着て無礼講はじまりぬ

山田東軒

羅漢の里を訪ねて

千里

耐ゆること生きることなり散ざくら

杉山美保子

羅漢の里を訪ねて

絶好の花日和に恵まれた四月十三日、
青嶺句会の吟行日。

今回はいつになく参加者が十一名と少
なくこぢんまりとした吟行となつた。
九時半山崎を出発し車中の人となる。
和氣藹々と語るうちに新宮に着いた。早
速、磨崖仏を拝す。誰からともなく、野
の花を手折り、お供えし、合掌する。続
いて寝釋迦の渡しを見る。

落椿十六羅漢寄り添ふて

八重

とみ代

何處まで釣瓶落しをゆく鳥

山岸その子

母と子のブランコ揺れて秋桜

杉山美保子

羅漢町騒遠く里の春

光子

薄木満寿恵

本條淑子

大槻の爆ぜる火の粉や初詣

田中良子

磨崖仏春の小川を見下ろして

良子

鰯雲自問自答のきりもなし

小林紫生

母と子のブランコ揺れて秋桜

永井とみ代

寄り添ふて十六羅漢木の芽冷え 泊水

泊水

沢蟹の隅へ隅へと水澄めり

藤井七代

母と子のブランコ揺れて秋桜

秦千里

車窓より桜、山つゝじを愛で乍ら羅漢

光栄

薄木満寿恵

本條淑子

大槻の爆ぜる火の粉や初詣

田中良子

の里に十時四十分到着する。羅漢渓谷の

美しさを肌で感じる。句材を求めて三三

五五散策する。

途中テクノボリースで休憩、余花を楽し

む乍ら五時頃帰着。天候にも恵まれた一

日を感謝しつつ、思い出を胸に解散した。

しんがりに息はずませてつゝじ道

チエノ

木洩れ陽の羅漢の里に春惜しむ 君子



お 箏 と 私

元山崎小学校校長

新間勝代（山崎町大才町）

私は、どちらかといえば洋楽より邦樂の方が好きです。

三味線・箏・和太鼓・鼓などの音を聞くと体の芯の血が騒ぐような気がします。

これは私が幼い頃、祖母に連れられてよく淨瑠璃を聞きに行つたことや、小学生の頃からお箏を習つたことなどが影響しているように思います。

明治生まれの私の祖母は淨瑠璃を聞くのが唯一の楽しみで、旭座（今はもう跡形もなく、現在は駐車場になっていますが……）に歌舞伎がくると必ず小学生の私を連れて見に行っていました。また、時々我が家にも淨瑠璃を語る人がこられていて、「今頃は半七さん、どこでどうして……」などというさわりの一節をわけもわからぬままに私も口ずさんだりしていたものです。

戦後なにかと不自由な時代でしたが、山崎町ではいちばんやく芸事が復活し、昭和一二、三年頃にはもう、踊りやお箏を習う人もふえ、旭座での発表会にはお弁当持ちでよく見に行きました。

私も五年生になった時、鹿沢の三浦先生のところに、生田流の箏曲を習いに行くことになりました。

箏は奈良朝直前に中国から伝来し、もっぱら雅楽合奏に用いられました。いくつかの手法をもつてむしろリズムを彩り、箏を弾きかへ、歌つたであろうようすは「源氏物語」にも描かれています。

現在につながる「箏曲」は、室町末期、九州久留米の善導寺の僧賢順が樹立した「筑紫箏」が出発点といわれ、その筑紫箏を江戸で賢順の弟子の法水より学び、近世箏曲の開祖となつたのが八橋検校という人です。

元禄時代、八橋の孫弟子にあたる生田検校の頃より箏と三味線の芸術性をもつた合奏が行われるようになつたそうです。
また、安永ごろ、江戸で山田検校が淨瑠璃や謡曲をとり入れ語り物的性格の強い箏曲を作り出しました。

こうして現在まで箏曲には生田流と山田流とそうして後に出てくる宮城流とがあるわけです。

当時は今のように本を見ながら弾くのではなく、一節ずつ先生の弾かれる通りまで弾き、暗記しておぼえたものです。だから一曲おぼえるにも長い間かかりました。しかし、そのおかげでどうか、四十年余り箏にさわつていなかつたのに、一昨年山崎小学校のフェスティバルで急に私が箏を弾くことになつた時、「千鳥の曲」をすらすらと弾くことができました。

これには我ながら驚きました。

小学生の時に暗譜で習つた「黒髪」「六段」「千鳥の曲」などは体が覚えていて、何も考えないのに指がひとりでに動くのです。芸事は三才からと言われますが、小さい頃の環境とか練習がすごい「力」をもつていました。

中学生になるとお箏を弾くのがとても楽しくて、宮城道雄氏の「春の海」や「水の変態」など一生懸命練習しました。

この「水の変態」という曲は、明治四十二年宮城道雄氏が十四才の時に作曲された処女作で、前の手事で雨を、後の手事で霞をあらわし、左手のピッチカートなどもあってとてもむずかしい曲です。

箏にのめりこんだ私は、大人になつたらお箏の先生になりたいと思うようになり、それまで週三回の稽古を週六回毎日稽古にしてもらい、今までの倍の速さで次々と曲をあげていきました。

その頃山崎高校にも箏曲部があり、板谷先生が来られていたので、高校に入学するとさっそく箏曲部



三浦先生社中発表会（昭和25年10月）

に入り、板谷先生にも教えて頂きました。

板谷先生は、宮城道雄氏のお弟子さんで、新曲といわれる美しい曲を次々と教えて下さいました。また時には洋楽器との合奏をしたりして、新しい感覚を吹き込んで下さいました。今は山崎町役場の駐車場になっているあたりにあった山崎高校の古い講堂での文化祭では、箏曲部と秋月先生ご指導のコーラス部との合同演奏などもいたしました。

また、年一回山崎小学校の講堂で尺八と箏の演奏会がありました。

当時は福山先生を中心とした尺八を吹かれる人が数名おられ、お箏を習っている人も樽岡先生の社中、三浦先生の社中、そして板谷先生の社中を合わせると五六十名いて、それはそれは盛んなものでした。

今も山崎町の恒例の春秋の文化祭で、舞踊、扇舞、箏曲、バレー、和太鼓いろんな分野ですばらしい芸を披露されますが、戦後まもなくの昭和二十六、七年頃に、もうこのように箏や尺八を習う人が多かったのは、さすが城下町として古くから芸事の盛んな山崎町ならではのことでしょう。

小学五年生から高校二年まで、本当に夢中で習ったお箏でしたが、師範の免状を頂いたのを機にやめてしましました。大学進学ということもありましたが、芸事の奥の深さや、しきたりの厳しさ、むずかしさがわかるにつれ、とても私は生きられない世界のように思われ自信をなくしたからです。

それから四十余年、家庭と仕事に追われお箏をひく余裕もなく過ぎてしましました。しかし、邦楽や日舞等に対する想いは強く、機会あるごとに観たり聞いたりして楽しませて頂いています。

昭和三十一年六月二十四日、当時私は学生で神戸にいました。その日私は神戸新聞地の聚落館での宮城道雄氏の演奏会を聞きに行き、会場で宮城道雄氏が関西での演奏会のため寝台特急「銀河」にのり列車から落ちられてなくなられたことを知りました。一緒に来られ



昭和27年度山崎高校文化祭

ていたお弟子さんたちが、「春の海」など泣きながら弾かれたのをよくおぼえています。

そして宮城道雄氏の演奏を聞くことができなかつたことをとても残念に思つたものでした。しかし、こうした演奏会にめぐり会つたのも

縁だと思っています。

今は和、洋種々の芸事が盛んで、小さな子供さんたちも上手にならっていて、すごいなーと感心いたします。

これからも益々芸事が盛んになり、伝統芸能が大切に引き継がれていくことを願つてやみません。

第十九回春の芸能祭ご案内

日 時 平成十年五月十七日（日）

午前十時から

午後三時まで

会員の日頃の練習の成果を、ぜひご覧くださいますよう、

ご案内申しあげます。

参 加 部 門 山崎詩舞道連盟・山崎謡曲同好会
山崎郷土芸能保存会・山崎邦楽邦舞研究会
さつき民踊グループ・播州山崎太鼓
パンブーファイブ・山崎町老人大学

後 援 神戸新聞社・山崎町教育委員会
山崎文化会館

主 場 所 サンホールやまさき（山崎文化会館）

筆者のプロフィール

昭和29年3月 山崎高等学校卒業
昭和33年3月 神戸大学卒業
昭和33年4月より菅野小学校・山崎小学校
など郡内の小学校に勤務
平成8年3月 山崎小学校長を最後に退職
現在 山崎町社会福祉協議会理事
山崎文化振興財団理事
山崎町結婚相談所専門相談員

ふるさとは遠きにありて思うもの

通商産業省工業技術院 物質工学工業技術研究所
高分子物理部グループリーダー

八瀬清志（山崎町鹿沢出身）

「しんじつの秋の日でればせんねんに心をこめて歩めざらめや」

これは龍野の赤トンボ公園の中にある三木清の碑にある言葉です。龍野市に生まれ、昭和初期に京都の唯物学派の学者として、社会文化を含めて一世を風靡した三木清の短歌です。彼は、第二次世界大戦中に思想犯を匿ったということで投獄されました。終戦後、思想犯の多くが出獄を許される中で、彼は無罪が確定していたにも関わらず、収監されていました。終戦後一ヶ月以上たった九月二十五日に、獄中で病死しました。獄中で病気にかかっているということで、国内外の学者・社会科学者が彼の出獄を政府に訴えましたが、間に合わなかつたということです。終戦という混乱期の中での出来事というには、悲しいできごとでした。

戦後の混乱期を朝鮮戦争の特需を契機として復興めざましかつた日本の経済も、戦後三十年を迎えてからは、かけがいが見えてきました。一九七〇年代のニクソン・ショック、一九八〇年代のオイルショックや日米経済摩擦などの外圧により、国民総所得（GNP）の毎年十%近くの経済発展は5%を切るようになりました。実際、毎年給料が倍増するような期待はできなくなりました。その後、証券相場を中心に円高ドル安の好景気が起り、土地・建設で日本経済は活況を迎えましたが、この景気もバブルのように間もなく終焉してしまいました。一九九〇年代はソ連邦の崩壊、東西ドイツの統一に見られるように、国際政治および経済の大きな転換期を受けて、日本でも自民党の分裂に伴う社会党の党首が首相になる群雄割拠の国会政治が続いています。社会的には、「オウム事件」に象徴される中高生から外国国籍の人まで、老若男女を問わず、被害者または加害者になるのではないかというほど、物騒な世の中になっています。

このような現代社会を内外の大きな変化にも関わらず、中央集権的に政治・経済をリードしてきた霞ヶ関の官僚も、現在は二〇〇一年の省庁再編ということで大きく流れ動いています。さらに年間の国費の三倍に及ぶ累積赤字（二五〇兆円）の償還のた



三木清の碑

筆者のプロフィール

1978年大阪大学理学部卒、大阪大学および京都大学の大学院理学研究科博士課程終了
1984年広島大学生物生産学部に赴任
1989年西ドイツ一年間留学
1992年現在の研究所に勤務
主な著書「真空中で分子を並べるー有機蒸着膜」、「有機超薄膜エレクトロニクス」など

めの「経済構造改革」は、昨年の消費税導入、今年の健康保険法改悪、減税打ち切り、など少しづつ国民生活にも影響が生まれてきています。また、一九九四年の神戸大震災で露呈した危機管理の欠如、原子力発電の実験施設「もんじゅ」の事故や動燃の事故隠しなどの放射能汚染の問題、沖縄の米軍基地問題や安全保障体制（日米ガイドライン）の改正（？）などに見られるキナ臭い動きは、本当に我々が二十一世紀まで安全・平和に生きて行けるのか不安な状況です。

本来は、勤勉・実直、かつ身を粉にして働く日本人は、資源の少ない国土でありながら、世界第三位の経済力を保有するようになりました。実際、日本製品が世界中におふれており、どこへ行つても観光客といえば、米国人、ドイツ人を上回る日本人がいます。そういう点で、世界中が「日本化」しているという状況ですが、共通するのは、大都会が高層ビルとラッシュ・アワー、そして不合理な事件にさらされているという点です。

その点、「いなか」は実にゆっくりと変化しています。あるいは、昔のよき日々、ありし姿を思うことで、変化しないものだということかも知れません。そういう心の中の「ふるさと」を胸に秘めて生きているのが人間なのだと思います。平和な時は、不幸になつた後で後悔するものとならないように、情況の変化をよく見つめながら生きていきたいと考えています。

バンド ファイブと私

パンプーファイブ

千田淳平

氏、ギターの松岡潔氏、ベースの伊藤次郎氏が加わって一応バンド体制が整う。

最近サックスとギターの石橋英雄氏とギターの前野弘幸氏の二人が加わり音に厚みが出て来た。

平成七年の秋のふれあい祭が初舞台。

今年のステージが三回目。その間町の催思いがけぬ縁で、山崎町船元の古い農家に移ってきたのが平成六年の春。

親交のある伴利昭氏に、山近く野の風趣を詠ずる歌語の「鶴鳴」くより鶴呼庵（じゅんこあん）と名付けて貰つて庵主

を氣取る。

廻りを山に囲まれ、滔々と流れる川に広がる美しい田園風景の城下町は、伝統ある落着いた情緒を今に残していた。

当地に住んで、随處に私が忘れていた伝統文化の深さを再認識させられる。

尺八と云う楽器に付いても云える。知

り合った加古公一氏を始め当地の尺八の

愛好家の演ずる調べと音色に魅了させら

れる。庵に招いて、色々な人の演奏を身

近に聴いて楽しむ。

ある日尾島忠義氏が洋楽のバンドをバッ

クに広く親しまれている曲を演奏したい

と訪れて来た。

面白い趣向に共鳴、早速私のピアノで合してみると、樂符の違いやら、尺八の音階の制約で試行錯誤する。

吾々の練習を聞いて、尺八の大部正勝



播州太鼓に応援して下さい

播州山崎太鼓 谷口公恵

れあい文化祭の演奏を終え、これからは、

オリジナリティあふれる播州山崎太鼓をめざして、それでもっといろんな方の心

に響く太鼓演奏をめざして、新しい道を

進もうとしています。いろんな考え方を持

した。どんな場所でも、いつも暖かい拍手とご声援をありがとうございます。応

援して下さる皆様の目と耳には私たちの演奏はどんな風に映っていますか。上手

に恰好よく演奏する姿でしようか。それとも下手な演奏をするへっぴり腰の姿で

しようか。きっと聴いて下さる方によつて受ける印象は違うのでしょうか。

メンバーの間でも結成からずっと続けて

いる者と、入ったばかりの者のレベルの差はちょっとやそとの練習ではうめられないものです。でもいろんなレベルの

者が同じ舞台に立つために練習を繰り返し、その中でそれぞれの不安や課題をかかえながら出演にそなえます。

は、それまでの不安なドキドキからは想像もできない快感と満足感を味わうのです。みんなあの気持ち良さを味わいたくて次の演奏のために練習に励んでいるのだと私は思います。

これからは私も播州山崎太鼓を応援する側に仲間入りです。いつも播州山崎太鼓を応援して下さる皆様、これからも暖かい拍手とご声援をよろしくお願ひ申し上げます。



絵
と
い
う
こ
と

美術協会 福岡久藏

毎週土曜日NHKのテレビで「美の朝」をしています。私は時々その番組を見ることがあります。見ているとそれぞれの画家の絵に対する考え方や姿勢が良く分かれます。

ある画家は「絵はドキュメントだ。今の大人は目先の豊さだけを追求している。私はこのような時代を剥ぎ取って絵にしようとしているのだ。絵画は時代をルボルタージュしなければならない。」

また、ある画家は「絵画は幻に過ぎないのだ。だから、できるだけ感情移入を排除しなければならないからデッサンをしない。そして、視覚でとらえられないものを発見して、描こうとしている。」

では、私の場合はどうなのだろう、と考えてみます。私は前者のように、政治的でも哲学的でもありませんし、宗教的でもありません。ただ「描きたいものに出会うから、描きたいものがそこにあるから描く」というだけなのです。しいて言えば、ものを見て驚いたり、感動したりしたことを描くのですから叙情的といえるかも知れません。

私は退職してから、ヨーロッパのあち

こちへ出掛けています。例えばローマのスペイン広場に行つた時のことで言いますと、そこにはスペイン階段があります。

それを見たときに、映画「ローマの休日」を思い出します。王女アンに扮したオードリー・ヘップバーンが階段の手摺りに座ってのびのびとしてアイスクリームを食べています。その傍らには新聞記者のグレゴリー・ペックが見守っています。もう、そう思ひだけで絵の用具を取り出して描き始めます。映画はモノクロでしたが実際はとてもカラフルです。階段こそ乳白色ですが周辺に立ち並ぶ建物はイエローーオーカー、オレンジ、ローズグレー、ライトレッドそしてバイオレットありでそれはそれは多彩です。一枚、一枚そして三枚と描いていって少しも厭きることはありません。夕方になって用具を片付け階段を上り、振り返ると視界は広がりローマが一望できます。家並みの上に教会のドームが盛り上つて見えます。それは逆光の中で美しいシルエットを見るようです。又、絵の用具を取り出し描き始めます。日が沈み、暗くなるまで描き続けます。何を描くか、何故描くかはわからないまま。

新潮会の誕生から、早や四十五年の日々が流れ、記念すべき節目の年を迎えました。昭和二十七年朝鮮戦争も終り、ようやく世界に平和な時代が始まりかけた頃でした。人々の心には、段々と落ち着きを取り戻し、戦中・戦後の空白を埋めなければと思う風潮が高かった頃でした。壮・青年であった会員諸兄も、間違なく、公平に一つずつ歳を重ね、年令的に員となっています。

その間、皆と同じ様に年を取ることが出来ずに、惜しい短い人生を終えられた会員も多く、ほんとうに残念に思われます。会員も少なくなりますと、毎月の行事も仲々出来難い状態となり、新の方々に入会願い、今では順調に運営され、今後は五十年、八十年と発展が期待されます。

話は少々違いますが、私達の世代、軍隊の経験のある方なれば、「貴兄は何年兵ですか?」と声をかけますと、「何年兵ですか?」と答えが返ります。大多数の方は昭和十四年「ノモンハン事件」の二・三年前から終戦迄の年代で現役入隊された方です。四年「ノモンハン事件」の二・三年前から凡そ、その年合を知ることが出来ます。

新潮会の誕生から、早や四十五年の日々

が流れ、記念すべき節目の年を迎えました。昭和二十七年朝鮮戦争も終り、よう

やく世界に平和な時代が始まりかけた頃でした。人々の心には、段々と落ち着きを取り戻し、戦中・戦後の空白を埋めなければと思う風潮が高かった頃でした。

元気であることを喜び合い、毎回同じよ

うな話題の昔話を花を咲かせ、又の出会いを楽しみにして居られると思ひます。

此の様な会は新しく会員を募ることも出来ず、毎回出席者が少くなり、本人の

会や戦友会など、お互いに旧交を温め、元気あることを喜び合い、毎回同じよ

うな話題の昔話を花を咲かせ、又の出会いを楽しみにして居られると思ひます。

此の様な会は新しく会員を募ることも出来ず、毎回出席者が少くなり、本人の

健康は勿論のこと、伴侶の方の状況にもより、段々と衰退の一途を辿っています。決して人員が増えることなく、五

十数年も経ちますと、もう解散しては・・・の声も出たり

します。止むを得ない事です

が大へん淋しい思いが致します。若い方には「何の話かいな?」「いつまでも馬鹿らしいことをしている」などの声

が聞こえそうです。目に触れ

たり、感動や、体験した人以外実感が伴わないのも自然かと思います。「しづや

しづ、しづのおだまきくり返し、昔を今

になすよしもがな」良く知られた白拍子、

静のうたです。あの頃の昔にかかるすべ

は無いものか?誰もが思うことです。年

と肉体だけ若かった頃に戻れたらなあと

詮ないことですが思うことが間々あります。

45年の歳月を 想いながら

新潮会

前野耕

踊りに魅せられて

山崎さつき民踊グループ
衣笠ヨシ子

私が小学六年生と四年生の二人の孫娘と一緒に踊りを始めたのはもう四年前のこと。山崎さつき民踊グループのお祖母さん、お母さん、子供と三世代が仲良く舞台の上で一つになり、明るく楽しく元気いっぱい、美しく踊られている姿に魅せられたからです。

見ている人々を幸せな気持ちにしてくれるその姿に暖かさを感じ、私達もグループに入れていただいたのでした。

お稽古を始めてから、もう何曲もの踊りを教えていただきましたがそのつど、なかなか覚えられないとか、一つ一つの動作がぎこちなく、やはり私には無理かな、皆の足手まといではと何度も脱落しそうになりましたが、先生の暖かいたい指導のもとグループの皆様にも励まされながら続ける事ができ、有難く思っております。

先日も、ふれあい文化祭に参加させて頂いたり又、この四年間、度々多くの人の前でグループの皆様と一緒に踊らせて頂く機会がありました。

私個人としましては、孫娘と目標をも



い致します

いつもご指導、応援を宜しくお願

「お孫さんと一緒に踊れていいなあ、いつも可愛いの楽しみに見てるよ。」と声を掛けてもらえると、嬉しくホッとします。

ち、練習をし、準備をし、衣装をつけ、グループの一人として踊る事ができ、とても素敵な経験をさせてもらい、良い思い出が増えたと、大変喜んでいます。

けれども一方では、一生懸命頑張っていても、緊張すぎ、踊っていると頭の中がもう真白になり、間違う事もしばしば。そんな私の姿は、見てくださる方々に、かつて私が感じた様な幸せな気分ではなく逆に不愉快にしているのではと不安を抱くこの頃ですが、後日お会いした人から「踊り頑張らてるなあ。」とか

史跡碑二つを建立

志水正信

山崎郷土研究会



山崎郷土研究会史跡部では郷土の皆さ

んにより多く、山崎の歴史を知つてほし

いとの願いをこめて、本年度は播磨の一

つの宮である伊和神社の遙拝所であつて、

いつまでも興味を失わずに踊りの練習が

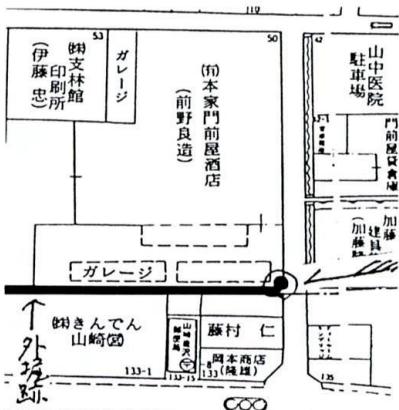
楽しく続けられるよう努力していくたい

と思います。

これまでご指導、応援を宜しくお願

い致します

城下の村人はこの門をくぐり、町通り、土橋御門を出て町へ買物を行った。そのため家中内では昼間が最も通行量の多い通りだったので通町と言った。昔は土橋御門前から西新町より本町にかけて商家の町並みが続き最も繁栄したと言う事である。以上であります。この御門は外堀に架っていた土橋の近くにあったので土橋御門と呼ばれ、石碑の場所から西に外堀がのびていた名残りが今も官有地として細長く残って居り、そこから南が鹿沢、北が西町と字名も違います。また明治末期まで堀には小舟が通つていたと伝えられています。



囲碁同好会

福井 章

私は至って無趣味、無芸な者ですが、それでも強いて趣味と言えば、週刊誌から古典までの乱説と開幕があります。読書の方は、古稀を過ぎた今、老眼ですから古目になり、開幕の方だけ四十数年飽きもせず続けています。他の趣味や芸事なら、四十年もやれば多少物になろうと思われますが、私の棋力は一向に進歩向上の跡が見られません。勿論、私の不勉強にも由りますが、「碁は別才」とも言われ、碁才のある小学生など三年程でアマの五段や六段になっています。それ以降の世界は私などには窓い知れぬ深遠なものらしいのです。

近年コンピューターの発達によつて、

色んなゲームで人間相手にコンピューターが対戦しています。チエスやオセロの世界チャンピオンがコンピューターに敗北したと言うような事が新聞に出ています。一方開幕の方では、コンピューターの実力は段級位にして十四級位なんだそうで、もう百年は人間が負ける事はない、と言うような事も開幕雑誌に出ていました。又私達が平素、碁盤が黒いほど、置

私は至って無趣味、無芸な者ですが、それでも強いて趣味と言えば、週刊誌から古典までの乱説と開幕があります。読書の方は、古稀を過ぎた今、老眼ですから古目になり、開幕の方だけ四十数年飽きもせず続けています。他の趣味や芸事なら、四十年もやれば多少物になろうと思われますが、私の棋力は一向に進歩向上の跡が見られません。勿論、私の不勉強にも由りますが、「碁は別才」とも言われ、碁才のある小学生など三年程でアマの五段や六段になっています。それ以降の世界は私などには窓い知れぬ深遠なものらしいのです。

しかし、一局一局に心血を削るプロ棋士や、アマの高段者の碁は、遠くから畏敬の念で眺めつゝ、私達同志の碁は、極めて、おおらか、無責任、楽しく、そして賑かです。私も、三のサークルに属させてもらつていますが、私の部落でも、「高下棋友会」と銘打つて、毎月一回、会費二千円、会員十三名、当番回り持ちで碁会をやっています。底抜けに楽しい碁会です。「ヤー、一眼の丹下左膳か、モーアカン!」「ワー、そこはわしが打とうと思っていた所や」あちこちで悲鳴があがる。私も持病の腰痛や耳鳴りを忘れて、一日は知らぬ間に過ぎて行きます。

碁との出会いが無かったら、さぞ殺風景な晩年だろうと、今更の如く感謝して

いる次第です。唯、ヤングの基離れにより、新加入者がなく、棋友が段々と少なくなつて行くのが淋しい。

「まつり」について

平成会 根岸雅晴

いて指導を受ける先生方も、時折来町されてる関西棋院のプロ棋士には、三目置いて悪戦苦闘しておられる。そのプロ棋士で、この秋、叙勲された元棋聖藤沢秀行九段は「碁は無限ですね。碁の神様が百知つているところを、私たちや、六ぐらいしか分かってない。」というのが持論だそうです。誠に恐れ入った話。事程左様に開碁の境地は、さる文豪の言では無いが「深奥幽玄」なものらしい。

さており、出雲地方では十月を「神有月」というそうです。すると全国各地の神社は神様の出張中にお祭りを行つてゐることになります。これはいわゆる俗説で、本当は「醸成月」すなわち、お酒を仕込む月のことを言うようです。

さて、「まつり」の語源は、「齋ひ奉る」ことからきています。又、神命を奉じ、之を畏み敬つて事に従事する服従、從属の意味をもつ「まつろふ」という言葉とも相関関係があるといわれています。神話の世界では天孫遙禪命は天照大御神から「私に替わつて地上を治めなさい」と命ぜられ、高天原から豊葦原中津國（地上）に降臨されました。地上を治めるということは、この時託された幼種で地上に遍く稻作を行うということでした。天皇陛下一人では全国の稻作を行つことは当然不可能なことです。これを国民に託し、広く農業を行うということが「政

からかっています。ですから、天皇陛下は今も自ら皇居内の悠紀田・主基田で稻を作つておられるのが、この事を物語つています。

一方、神祀りの「まつり」は、儀式を行つて神威を敬い、音楽を奏上して御心を和すことです。この儀式の前後には、祭全体を賑やかにして神威を発揚して、さらに高まつた神威の恩恵を受けようとしていろいろな催しが行われます。これは神振行事といわれるものですが、今はこの部分だけをとりいれで行つさまざまな「○○祭」が町中に氾濫しています。町おこし・村おこしの各種イベント、商店の大売り出し等。たしかにお客様は神様に違ひありませんが、まつる対象のないまつりが多いのではないかでしょうか。

「まつり」と名付けた以上、かたちだけ

でなく一度「まつり」の本質である神仏

や自然の恵みに感謝の誠を捧げることを

考えてみると、即ち日本人の原点に立

ち返つて物事の価値判断を考えてみると

とも大切ではないかと思います。諸行事

観察会百回目 を迎える

山崎植物同好会

鳥 越 茂

私たちの会は久宗丑雄会長以下会員数百余名で、年間八回の観察会を行っています。観察会も今年で百回を迎えるため、記念として本年七月に『野山の雑記帳百回記念号』を発刊しました。全四十頁ですが、予想以上に多くの方から投稿いただきました。その内容は植物に対する思い入れが強く伝わってくるものばかりで、思わず引き込まれます。本会の雰囲気と、会の理念は、編集を担当した井口理事の編集後記に良く表現されていますので、引用します。



西粟倉村にて

「いろんな職業の人々がただ植物や昆虫が好きだからという理由だけで集まつくる団体なのです。会社の役員を引退された人、現役の商店経営者、学校の先生や引退された校長さん、役場にお勤めの方、お医者さんや看護婦さん、電気屋さん、薬屋さん、運送屋さん、八百屋さん、町会議員、家庭の主婦、喫茶店のママさんとまあ老若男女を問はず、都会に住む人もあるが農村に住む人といろんな人が構成されています。多趣味芸の人もおれば、そうでもない人もいるという具合で

味線を主要な伴奏楽器とする至高的歌曲」と、記載されている。さてその長唄、江海先生のおかげで今日の同好会の発展を見ることができたのだと思います。」

このよきな会の活動が十一月一日の朝日新聞の“オーラ”という週一回発行される地域版に紹介され、記事を読んだ姫路地域の方八名が新たに入会されました。

この会は入退会自由の気楽な集まりです。これからも植物を通して自然の不思議さと活力、醍醐味を味わっていきたい

と思っています。

「長唄」とは「三

職場の同僚や友人の多くは、普段邦楽

三下りのさわりが優雅で美しい。詞は、江戸名所めぐりではあるが、八景にこだわらず一日の夜明けから翌朝までの移り

もの、難曲であるので、なかなか最後まで気分よく弾き終えることは少ない曲である。

長唄の特色はと言うと、第一に内容が比較的上品で、第二に邦樂の中でも最も領域が広く曲の分類も広範囲にわたり、第三に演奏形式の多様性があげられる。唄・

料亭で盛んに演奏会が開かれるようになり、独立歌曲として鑑賞され、演奏会本位の長唄

三味線各一人という最

少単位の独吟から、百

人以上に及ぶ大合奏も

可能とする自在性をもつ

てているのである。

代表曲としては、先

の素唄ものの他に

舞踊:『越後獅子』『五

郎』『鷺娘』など。淨瑠璃風:『安宅の

松』『韌猿』など。

大薩摩風:『絹館』『筑摩川』など。

謡曲風:『竹生島』『船弁慶』など。

古典と言われる先述の他に、新形式によ

る『新長唄』や童謡など次々に創作が

続けられている。たった三本の絹糸から

紡ぎ出される華やかで、勇猛で、優雅な

音色。耳に心に残る、「あの音色」を求めて、今日も三味線を弾く。

長唄というものの

山崎邦楽邦舞研究会

野 村 恵 子

開かれるようになり、

料亭で盛んに演奏会が

好者が現われ、邸宅や

各种歌曲を吸収し発展

した。幕末になると、

大名や富裕商人らに愛

好者が現われ、邸宅や

料亭で盛んに演奏会が

開かれるようになり、

独立歌曲として鑑賞さ

れ、演奏会本位の長唄

が誕生した。舞踊の伴奏でなく純粹の聞

きものとして演奏されるこの長唄を素唄

という。『吾妻八景』『秋色種』などが代

表曲である。

『吾妻八景』は、私の一番好きな曲でもある。先に唄をおぼえた。唄ながら、この曲を独りで弾き唄いでたらどんなに気持ち良いだろうと思い続けていた。

三味線の稽古が始まると、夢中で何度も何度もささらつた。本調子→二上がり→三

下りと調子が変わっていくのだが、特に

ある。先に唄をおぼえた。唄ながら、この曲を独りで弾き唄いでたらどんなに気持ち良いだろうと思い続けていた。三味線の稽古が始まると、夢中で何度も何度もささらつた。本調子→二上がり→三

都多に残る 獅子舞の紹介

郷土芸能保存会

大 谷 司 郎



山崎町内には、神事芸能のひとつとして継承されてきた獅子舞が四か所ほど残っています。当都多地区の獅子舞は、都多小学校の北隣りにある桓武伊和神社の秋祭りに奉納されているもので、昭和五十八年に保存会が結成されてから十五回、雨天で流れることもなく、毎年十月十日に奉納され続けてきました。

保存会が結成されるまでは、中野地区だけが獅子舞をもち、当屋が中野に回ってきたときだけ獅子舞を奉納していました。この当屋制は十二年周期で中野にはそのうち四年ということでした。このままで途絶える可能性が高いとして、中野だけでなく氏子四か村で保存会を作るに至った次第です。

さて恒武伊和神社は、桓武天皇を御祭神として祀っていられる神社で、境内の梵鐘

には、それが鋳造された宝暦十一年、桓武天皇の伝説がこの地に根を下ろしてたことを物語る銘文が刻まれています。言い伝えでは天皇はこの地にたびたび狩に来遊されたとか、そしてこの地で崩御されたので神として祀ったということです。神社の裏山は宮山と言い、天皇の御陵といわれ、その頂きに古墳があつて、昭和八年に大がかりな発掘調査が行われました。銅鏡など多くの埋葬品が発掘されて、葛沢村に限らず、近郷からも見学者の列が絶えず大きな反響を呼んだそうです。当獅子舞は桓武天皇の靈を慰めるため猪を供えていたものから変化して奉納するようになったと言われ、始まりは明治の中頃のようです。ここで奉納の順序と各演目をご紹介します。

一、舞台掛け 最初に奉納する舞で舞台の隅々まで清める舞。
二、剣の舞 悪魔を剣で払いのける舞。
三、八州 (ヤシマ) 子役三人とそれに戯れる獅子を表していて、五穀豊穣、家内安全を祈願する舞。

四、洞返し 獅子が天狗と戯れる荒々しい舞い。
五、お多福 (ホラガエシ) おたやんとも言います。おたやんがもっているマリをくわえようと獅子が口を開けて追いかけ、戯れる舞。

六、シャンギリ 最後の獅子舞で、舞のクラ

イマックスを表し、横転び、肩馬立ち、そして背転びをする勇壮な舞。

図書の検索について

山崎文学会 安井道夫

く、あらゆる価値観が変動している時期、もはや百科辞典での固定的な知識では間不合わず、どうしても何種類かの専門書を必要とします。

さて、もっとも簡単な図書検索は、コンピュータ設置の図書館では端末機の簡単な操作で書名、著者名、主題などから検索できますが、探書のプロである司書に聞くのがもっとも簡単でしょう。その

図書館に保管されていない場合、他館から取り寄せてもらつたらいのです。私の経験では、戦争直後のある法律の条文が必要で、図書館ネットで検索して貰ったところ、早速四日後には大分県立図書館から当年の六法全書が届いたとの連絡を受けました。

国会図書館では、こういう場合必要とする法律条文、または官報などの頁数を指定すればコピーを送ってくれます。

世はすでに情報化時代に入り、書物は消え行く運命にあるといわれていますが、いま生きている世代はそこまで行くはずがなく、コンピュータのディスプレイだけに頼るようになれば、もはや思考形態もいまとは全く別ものになっていると思われます。

どうしても私たちの真っ当な知識は書物に頼るしかなく、限られた時間の中で何を読むかが重大な意義をもち、書物検索に習熟することが必要になります。

昭和会四十周年を迎えて

昭和会
大畑芳一

昭和会のメンバーは昭和一桁生まれ（例外あり）の集まりである。最近、現役引退者が始めているが、まだ大半は現役で仕事に取り組んでいます。会の目的は、親睦を図ることを第一としているが、地域社会の文化活動にも一役を担うべく結成して早や四十周年を迎えました。

毎月の例会では、各界のエキスパートを講師に迎え、講話を聞くことにしていきます。会員の幅広い知識の向上と文化的教養を養う上でそれなりの成果があつたようです。又、大半は幼児期からの友人の集まりでもあるため、日頃忙殺の日々が続く者同志、月一回の出会いがお互いを確認しあい、又一瞬幼少期の頃への帰帰のときでもあるよう、このような例会をくり返しつつ四〇年の歴史を刻みました。随分長い交友を続けてきたものと感心しています。

又一面、国内情勢も発足当時よりめぐるしい変革を遂げてきました。発足当時、昭和三十年代の中頃の所得倍増論から高度成長期を経て経済大国へと大きく変化し、想像もできなかつたまでの成熟

社会を築き上げました。同時に物質的豊かさとはうらはらに精神的貧困者がはびこり、大きな社会問題を作る結果ともなりました。半世紀近くも共に生き、交友を深めてきた会員もそろそろ老境に近づく年頃になりました。今後は更に友情と親睦を深めあいながら、地域社会の文化向上にも寄与しつつ、人生をより一層実り多いものにしたいと念願しております。

平成九年の例会の内容

1月19日 新年例会 祝宴

(菊水)

2月26日

2月例会 日本人と宗教

(菊水)

3月14日 3月例会 昭和とその時代
本源寺住職 宇野裕章氏

(にししん)

4月21日 4月例会 山崎町の当面の課題
山崎町長 上木茂志氏(伊沢の里)

(にししん)

5月17~19日 健康例会 山中医院
山崎警察署長 警視 吉岡弘之氏

(にししん)

6月14~15日 会員旅行 京都方面
（にししん）

9月24日 9月例会 インドを旅して
・法務局の統廃合について
安井登記事務所長 安井道夫氏
(にししん)

10月30日 10月例会 昭和一桁生まれの反省

サツキの歴史

播磨さつき会
田口 實

桜と共に春が訪れた山野には、これにつづいて、ヤマツツジを始め、モチツツ

ジ、キシツツジ、サツキツツジなどが、

紅に、紅紫に美しく咲く。このサツキが、

わが国で文献に現われたのは、奈良時代

の天平五年(七三三)に成立した出雲風土

記の「山野にある草木」のうちに、

「茵草」が記されているのが始まりであ

ります。

飛鳥時代の後半、万葉集第一期に「石

躑躅」を詠んだ歌が收められているのに

あります。

始まり、集中ツツジを詠んだ歌九首が数

えられ、「いはつじ」のほかに「しら

つじ」、「いつつじ」、あるいは「つつ

じばな」といった名が詠まれているが、

「さつき」あるいは「さつきつじ」の

名はまだ現われていません。

元保健所長 医師 北岡 修巳
(にししん)

11月17日 11月合同例会 昭和会・平成会

美人考(秋田美人を中心)
ホテルグランピア大阪

監査役 津田欣一氏 (伊沢の里)

万葉集のあと、古今集(九〇五)～新続古今和歌集(一四三九)と各勅選和歌集にも、いれども「いはつじ」と詠まれ、建久元年(一一九〇)頃と言われる山家集では、単に「つづじ」と詠まれています。

これは今も、「サツキ」は、ツツジ類に豊富な知識のある人以外は、その区別をせずに、岩上に生ずるものと「岩つつじ」、白花のツツジを「白つつじ」としたのも常識的に理解できます。

「サツキ」の名が文献に現れたのは、

天和四年(一六八四)の「立花正道集」に

山ツツジ、紫ツツジと共にサツキの名を

あげ、花道書に初めてサツキの名が明記され、この頃から大方の花道書にサツキ

があげられるようになつたのです。

園芸書に見られるのは、わが国最初の

園芸書として知られる、水野元勝著『花

壇綱目』(一六六二)には「躑躅異名の事

として、ツツジ類の品種名一四七種が掲

げられている中に、サツキの名称は現わ

れていないが、その品種名の中には「朝

かほ」、「揚貴妃」、「巻きぬ」など、この

あと、サツキの品種名として用いられた

ものが含まれています。

元禄五年(一六九二)に刊行の『錦繡枕』

(後に長生花林抄と改題)に「さつきの部

とし、サツキ二六二種を掲げて、色彩、花期、花の大きさ、品位などを記載し、

サツキの盛況の程がしのばれます。

宮本武藏は長水城主

宇野下総守の孫である

山崎詩舞道連盟 小川 登

宮本武藏は作州浪人、京都で吉岡一門と斗い、巖流島で佐々木小次郎を討った豪傑で、血も涙も無く、聊か教養に欠ける人物と考えられ勝であるが、決してそうではない。由緒正しい名家の出であり、剣の達人であったと同時に、彫刻、絵画、書道等の芸術家でもあった。今日に於いても珍重されている「名鷹の図」は国宝になっている。

武藏の家系は徳大寺大納言家と赤松則村の二男、美作の守護、赤松貞範流の名

家の縁辺に当り、父無二

斎、祖父、曾祖父、何れも妻は新免家の出である。

武藏の母と、長水城主の三男宗貫（新免家の養子）の妻は姉妹である。（系図参照）

武藏は生涯、妻を娶つていないので養子を二人迎えている。その一人は宗貫の孫、三喜之助貞為である。貞為は姫路城主

本多忠刻に仕えたが、忠刻の死後、殉死している。忠刻は有名な千姫の夫である。

貞為の墓は書写山の本多家の墓所の側に建てられている。二人目の養子伊織は、三木城主別所氏の出であるが、明石城主小笠原氏に仕え、小笠原氏が豊前小倉へ国替後、同侯に従って下向、家老職となる。島原の乱に父子共々軍功を挙げ、三千石を賜る。一介の武弁で無い事は以上で御解り頂けたと思います。

武藏の父無二斎は、京都の剣士、吉岡

憲法と三回試合をして、二回勝つた。天下無二の兵法家として将軍より此の名を賜つたのである。武藏と吉岡道場との決戦は、父に対する遺恨試合を武藏が受けたたつたのである。理はあるのか御分り頂けたと思います。

佐々木巖流との鬭いも、當時多くの新免家の臣が筑前黒田藩、小倉小笠原藩に仕えていたので、武士の面目上、新免家の頂点に立つ武藏としては退く事が出来なかつたのです。武藏が勝利した後は、是等の人々の株が上がつたことは想像に難く無いところで、二回の名勝負も義の闘いがありました。

日本人は、どうしても物事を狭く狭く考えがちで、ものすごく小さな世界で生きているように思います。だから差別や偏見などの問題が、たくさんあるのです。

友達との間でもそうです。先入観や一部だけを見て、「あの子は嫌い」と言ったり、「むかつく」と言つたりします。決して良いことではないと、わかっているはずなのに、そのままの悪口を言うことでみんなの仲間に入れるという安心感があるのか、大勢になればなるほど、盛り上がるのです。

一年生の時、ある人の靴がなくなったり、ヘルメットがなくなったり、ということがありました。その時開いた学年終会で、先生に「ヘルメットかくしたり、靴かくしたり」と問われたことがあります。これは、陰で人の悪口を言う事にもつながるのではないかでしょう。

考えてみて下さい。陰で悪口を大勢で言つている自分は好きですか。どうせなら自分で自分を誇れるようになりたいと思いませんか。

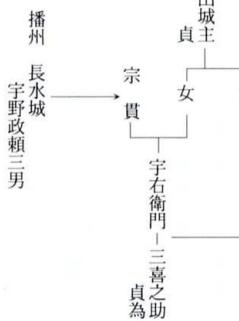
さあ、とじこもってばかりいないで、勇気のない自分に手をさしのべて下さい。

私は昨年の三月に合唱団でアメリカのスクイム市へ行きました。アメリカでは人とすれちがうだけで

「HELLO」

という明るい挨拶と、笑顔がとんできました。言葉を交わすのは、ほんの数秒のこ

とでしたら、とても暖かく、うれしい気



紅葉を楽しむ

山崎謡曲同好会

伊野操治

神無月も半ばを過ぎる頃には、農家では秋の収穫も終え、やれやれと一息ついたところ、その間もなく晩秋を迎える紅葉の季節となります。月日の経つのは早いもので、丁度昨年のこの時期に私達「謡曲」のグループ十五名程が「紅葉を楽しむ会」と題して波賀町にある「原の滝サイクリングセンター」へと日帰りの旅に出掛け、紅葉の名所「赤西渓谷」のもみじ狩、その後謡曲「紅葉狩」の一曲も詠つて、とても和やかで楽しかったことを思い出します。

そもそも、私達の仲間は現在十名足らずと会員は減り、他社からの参加も得て実行することとなつたのですが、山崎より四台の車に分乗、目的のセンターに午前十時頃到着、一休みの後三五五連れだつて滝の見学に出かけた。初めて来られた方もあってとても楽しそう。写真を撮る者、高い所に滝を展望する所が出来ていて、いち早くその上に昇り滝を見て、オーライ素晴らしいぞここに上つて来いよーと呼んでいる者、今も目に浮かんでくるようです。そんなひと時を過ごしセンターに帰館したのは、もう晝時を過

ぎた頃だった。早速思い思いに食事の作文料理を持つ間に感想を語り合つことでした。就中、感心したことは、町の投資と町民の協力によって素晴らしい観光地と変貌した原の滝とリンゴ園のことでした。山崎の町にもこのような所があるなあーと羨しくさえ思えたことです。

雑談のうち料理が運ばれ早速皆で舌鼓、ビールを酌み交しほんのりとした気分で紅葉狩りに出発。行先は「赤西渓谷」車で数分の内に目的地へ。時期も頃合いとあって素晴らしい景観、謡曲「紅葉狩」の曲の中に「時雨を急ぐ紅葉狩深き山路尋ねぬ」と詠い出しの一節がありましたが、何故時雨を急ぐのかなと調べてみると、ある解説に時雨たあととの紅葉は、「葉っぱ」が濡れ一際色が鮮やかに見え景觀を一層引き立ててくれるるとある。そんなん思いの中渓谷の深山路へと樂しみながら散策、程よい所に車を止めていたのだが帰りの径は少し疲れた。途中引原ダムを一度見たいと言う方がいて廻り道をし湖畔にある喫茶店で休憩、時計の針は既に午後三時、今回のマーンである謡い会の時間である。急いで帰館会の準備をする者、風呂に入る者、お互いが指定の席についたのはもう四時を過ぎていた。

将棋は物静かに思索を鍛つて戦う地味な個人競技であります。偶然性に頼らずすべてを自分自身の思考により進めなければならぬ世界であります。この中ににおいて、精神修養、道徳を守る基本にもなるし、集中力、思考力、忍耐力、記憶力などが養成されてくるものと思います。

ここ何年か、子ども将棋大会が年に一回開催されています。私も同好会の一員として、毎回、この大会の進行に携わっています。小学生低学年、高学年、中学

生と、それぞれに分かれて対戦することになっていますが、どのクラスも熱戦が繰り広げられています。将棋の好きな子どもたちが、力を出し戦っているわけですが、対戦の合間は、にぎやかに騒いでいます。いざ、勝負の世界に入ると、静かに将棋の駒を見つめています。この姿をみると、子どもたちの将来が楽しく思われます。小学

子どもと将棋

山崎将棋同好会
後藤一孝

生、中学生では、将棋を指す回数の多い子どもは強いが、特にその中でも、集中力のある子どもは、勝ち数が多くなり、今後も強くなると思われます。

将棋は物静かに思索を鍛つて戦う地味な個人競技であります。偶然性に頼らずすべてを自分自身の思考により進めなければならぬ世界であります。この中ににおいて、精神修養、道徳を守る基本にもなるし、集中力、思考力、忍耐力、記憶力などが養成されてくるものと思います。

特に、子どもの頭の柔軟さと吸収力には驚かますが、この少年期から将棋をおぼえ、親しみ、修練を重ねていくことが、子どもたちの人間性を高めるための役割を担うものと信じております。

現代の家庭や社会において世代間の交流が欠けているなかで、大人と子どもが共に対等平等な立場で交流の場をつくっていくひとつが将棋の世界であると思われます。

近年、学校教育にも将棋が採り入れられています。大学に将棋部が設置され、久しく、すでに伝統ある歴史をもつ大学が多いようです。

高校では将棋クラブ活動が活発になっています。本年度より、沖縄県立真和志高校では、自由選択科目の中に、囲碁、将棋を正規の単位として取り入れることが報道されています。

中学生、小学生にもクラブ活動の選択肢のひとつに採り入れられているところが多くなってきています。

個性を高め、人間性豊かな子どもを育成していくためにも、また大きく「日本文化の継承」のためにも、児童、少年期から将棋を学校教育により入れ、確固たる位置づけをし、積極的な指導をしていくことが期待されます。

事務局便り

☆山崎町文化協会の新役員

▽会長＝壇阪壽▽副会長＝荒木俊介、
藤井慧秉、本條衛、長川耕一▽理事＝伊
藤勉（新潮会）福岡久藏（山崎美術協会）
小川登（山崎詩舞道連盟）安井道夫（山
崎文学会）伊野操治（山崎謡曲同好会）
栗山節子（山崎歌人協会）芦田八重（山
崎俳句協会）片山愛弘（山崎開碁同好会）
久保洋（播州山崎太鼓）片山澄之（山崎
町合唱連盟）志水正信（山崎町郷土芸能
保存会）井口武一（山崎植物同好会）根
岸雅晴（平成会）西川慶子（さつき民踊
グループ）三浦昭平（昭和会）堀口春夫
(山崎郷土研究会)石野和雄(山崎邦楽
部舞研究会)立花正太郎(播磨さつき会)
三宅宏佳(山崎将棋同好会)塚田美紀
(山崎児童合唱団)松岡潔(パンブーファ
イブ)谷川ヒデ(山崎茶華道協会)▽監
事＝垣口正信(山崎植物同好会)三浦昭
平(昭和会)▽顧問＝杉元清美(新潮会)
以上 敬称略

☆「文化のこみち」づくりに寄託金
山崎町元山崎、谷川ヒデさんは、永年、
山崎町文化協会の理事として活躍した亡
夫、道一さんの遺志により「文化のこみ
ちづくりなど文化振興のため役立てて下
さい」と、十萬円を本協会に寄託。
「文化のこみち」づくりは、最上山公園
「文化のこみち」創造推進委員会が中心

になって造成準備をすすめてきたが、第一期工事として平成十年四月までに同公園内の“千畳敷”周辺に歌碑と句碑十六基を建立する計画。

編集後記

編集長 荒木俊介

今回ご寄稿頂いた原稿の中で前年度当
協会に入会されたバンブーファイブの代
表者千田淳平氏の書かれた隨筆を読ませ
て頂き、このユニークな団体の存在に大
変感銘を受けました。日本の誇る伝統芸
能である歌舞伎、長唄、清元なども源を
辿れば市井の自由達の自由な発想から
長い歴史を経て今日の様な形態に完成さ
れたのですが、バンブーファイブの存
在もオーバーな表現かも知れませんが、
そうした先例を彷彿とさせるものがあり
ます。健全な発展を切望してやみません。

安井道夫氏の新たな小説的技法による
インド紀行「インドからの手紙」は、大
変興味深い内容になつております。ご熟
読下さい。特別寄稿には、八瀬清志氏の
「ふるさとは遠きにありて思うもの」と、
今回初めて女性の方にもということで新
間勝代氏の「お箏と私」の二編の玉稿を
頂きました。又、表紙並びにカットには
相交らず華麗なタッチで健筆の福岡久藏
氏にお世話をなりました。

以上それぞれの分野に於いて大変お忙
しい中を柱げてご寄稿ご協力賜りました
ことに対しまして衷心より厚くお礼申し
上げます。

OA機器・事務用品・スチール家具
学校設備品・理化学機器・楽器

イトーオフィスサービス 株式会社

代表取締役 伊藤和久

山崎町中広瀬117-12 TEL(0790) 62-0126

創業明治28年・さつき本舗

四季の菓子

御進物・おみやげ・お茶うけに、四季折々の
真心こめた手づくりの御菓子を



御菓子司



本店：播州山崎町さつき通り (電)62-0170
山田店：播州山崎町山田 (電)62-0160



飛石機械産業からのお願い

人が人として幸せになれる処方箋は何なのか、そのようなことを考え「幸福の泉」を生活信条に、自作自演で30数年を歩いて参りました。昭和46年、会社発足時に経営理念と改め、お客様のご信頼にお答えする為に、人としての使命感に燃え、それを無限のエネルギーとして全社揚げて取組んでおります。

当社では、企業は社会の公器でなければと申し上げており、流通の世界の中で生活文化の向上を願い、多目的に活躍しておりますので、尚一層のご支援をお願い申し上げます。

TOBIISHI

飛石機械産業株式会社
TOBISHI KIKAI SANGYO CO.,LTD.
for happy day happy life
飛石建機・水力
飛石レンタル・山崎
トビイシ建設・水力
トビイシレンタル・山崎
トビイシ・クリエイティブ
トビイシ・クリエイティブ
飛石レンタル・山崎

◆最新型カラー現像機導入◆

カラープリント・スピード仕上げ
良い品を・安く・安心して買える店



アソブカメラ

Specialty Camera Shop

宍粟郡山崎町東鹿沢26-3 本店 TEL.(0790)62-2089
咲ランド店 TEL.(0790)63-0533

料理旅館・割烹

創業
文久元年

菊水

兵庫県宍粟郡山崎町山崎287

TEL (0790) 62-1119代

幸せへの旅立ちに――。
青

ふじむら貸衣裳

宍粟郡山崎町山崎181 本店 TEL(0790) 62-0052
咲ランド店 TEL(0790) 63-0565

くらしのメッセージいろいろ……

- 大切な年金、給与振込は **にじん** の自動受取で **あんじん**
- 素敵な暮らしのお手伝い **にじん** 個人ローンでお気軽にどうぞ

豊かな街づくりをお手伝いする



西兵庫信用金庫

TEL 0790-62-2020(代)

本
醸
造

龍
神
し
ゆ
じ

ふるさとのお酒

清酒
山陽

確かな品質

純米酒

さ
つ
一
献
き



山陽盃酒造(株) TEL (0790) 62-1010(代)



株式会社 **ミキモク**

兵庫県宍粟郡山崎町庄能120
TEL (0790) 62-1238(代)
FAX (0790) 62-5180

(株)ミキモク販売
(株)マンクス
(株)ミキモク東京営業所
埼玉県草加市水川1234

TEL 0489-22-5656
FAX 0489-28-5450

TEL (09448) 6-3418(代)
FAX (09448) 6-3419
TEL (02) 236-4694
FAX (02) 236-7198
TEL 0411-8612720
FAX 0411-8613307

株式会社 **九州ミキモク** 福岡県大川市向島字中開118

株式会社 **タイミキモク** (本社)タイ国バンコック市ニューロード1173-4

合作工廠 華豊美樹木 中国遼寧省莊河市延安路2段125号

安全で快適な生活をお届けする

JOMO 株式会社 ジャパンエナジー 特約店

Y ホンジヨウ

本社 兵庫県宍粟郡山崎町中井96 TEL (0790) 63-1234(代)
(0790) 62-4321(代)